

山形スタディツアー

(インバウンド推進・地域活性化
のためのスタディツアー)

総括報告書

(2018～2020年度)



ご協力いただいた皆様へ

2018年度からスタートいたしました山形スタディツアー、今年3年目を終えました。皆様のご協力が、学生達はじめ、このプロジェクトを推進してきた私たちの大きな支えと励みになりました。心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ただ、2020年度は新型コロナウイルス感染の影響で、夏のツアーを中止し、冬はオンラインにてミーティングや講義を実施いたしました。

今年度の状況を鑑み、来年度以降、このプロジェクトを継続していくために、この3年間の活動を総括し、ご報告申し上げたいと思います。

本プロジェクトの実施にあたりましては、山形県の各自治体様はもちろん、関係団体様、地域の皆様にも、たいへん魅力的な活動内容をご用意いただき、また学生の指導にご協力いただきました。

こうした皆様のご厚意とご尽力に支えられてこれまで継続することができましたこと、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

大学側といたしましては、これまでお世話になった自治体様に来年度以降も受け入れをお願いし、継続的にスタディツアーを実施していきたいと考えております。

今後とも、引き続きご協力を賜ることができれば幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。

国立大学法人 東京外国語大学
2021年3月

目次

1. 山形スタディツアーの目標と方法
1. 受け入れ自治体
1. 2018年度(夏学期)
4. 2018年度(冬学期)
5. 2019年度(夏学期)
6. 2019年度(冬学期)
7. 2020年度



目標

1. 日本の現状と問題点を、具体的な地域を対象とし、自らの体験を通して具体的に認識する。とくに2020年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、少子高齢化の進む地方の現状がどのように変化し、あるいは変化しようとしているのか、現状と問題点を学ぶ。
1. 地域社会に暮らす住民の方々との対話を通して、地域の持続可能性にとって有意義なインバウンド推進の方向性を探り、実現することを目指す。
2. 日本社会が構造的に抱える問題を解決してゆくための道筋を考え、日本、そして世界の将来を担うという意識を持った人材を育成する。

方法

2018年度、2019年度

1. 留学生と日本人学生がともに山形県に滞在し、地域の歴史や文化、現在の産業などを体験学習する。
1. 山形県の魅力を海外在住者向けに多言語で発信するためのインターネット等のコンテンツを作成し、地元自治体や住民などと連携してそれを海外に発信する。
1. 海外からのインバウンドを推進することで、地元で成果を還元できるような取り組みを行う。

2020年度

1. 山形県の現状と問題点を各自治体・JETROの担当者によるオンライン講義で学ぶ。
1. 山形県の高校生と留学生・日本人学生によるオンラインミーティングを行い、これまでスタディツアーで外語大生が発見した地域の魅力を伝え、その発信方法を提案することで高校生に地元を見直す契機にもらう。また、外語大生のほうは高校生から示された反応、問題点の指摘、コメントを受け止め、今後の課題は何か、地域の高校生が感じている問題を解決していくにはさらにどのような工夫や取り組みが必要かを考える。
1. 学生がグループに分かれ、自治体、JETRO、スタディツアー参加経験者の協力を得てオンラインで意見交換し、各自治体に提案を行う。

2018年度夏学期

各自治体の受入案

- 寒河江市：** 登山道整備、サクランボ・ブルーベリー等収穫体験、観光協会・地元旅館・観光物産販売施設等でのインターンシップ、地元特産品生産現場での見学・体験などをとおして、地域の魅力・観光資源を掘り起こし、インターネットでの発信方法の提案・コンテンツ作成を行う
- 白鷹町：** 農家・製菓店・焼き物工房などでインターンシップを行う。
地域の魅力・観光資源を掘り起こし、インターネットでの発信方法の提案・コンテンツの作成を行う
- 高島町：** JETRO山形共催のワークショップ(地元企業の商品の海外輸出戦略提案)を実施する。
「昭和レトロ町」の再活性化に向けた取り組みの提案を行う
地域の魅力・観光資源を掘り起こし、インターネットでの発信方法の提案・コンテンツの作成を行う

参加学生

- 寒河江市：** 16人
留学生4人(中国・ジョージア・ギリシア・台湾)
日本人学生12人
- 白鷹町：** 9人
留学生2人(タイ・中国)
日本人学生7人
- 高島町：** 6人
留学生2人(マレーシア・オーストラリア)
日本人学生4人



各自治体での活動

①寒河江市

(留学生4人、日本人学生12人)

7月17日(火)

寒河江市庁舎にて市長のご挨拶をはじめとした歓迎式
観光農園でさくらんぼの収穫体験

TASSHOにて寒河江市の歴史、観光開発への取組み、人口政策についての講義を受講



7月18日(水)、19日(木) (2グループに分かれて交互に実施)

- ① ブルーベリー収穫作業およびトマトの出荷作業
- ② 葉山の登山古道(大尊仏コース)復活整備作業



7月20日(金)

体験観光の資源調査

(豆腐作り体験、そば打ち体験、手編み草履製造見学)

7月21日(土) (自由時間)

地元の方々との交流や市内観光資源調査

7月22日(日)

2、3人のグループに分かれて就業体験

- ① 観光協会の窓口業務
- ② JAのジェラート販売
- ③ 観光物産施設「チェリーランド」での販売業務
- ④ 寒河江SAの販売業務
- ⑤ 温泉宿「一龍」接客業務
- ⑥ チェリーランドパークホテル接客業務



7月23日(月)

午前：市内観光業者とのインバウンドに関する意見交換会

午後：観光ワークショップ(JTBGMT)への参加、翌日の報告準備

7月24日(火)

午前：報告会の最終調整

午後：地元報告会

- 学生たちによる自己紹介、活動報告、Facebook多言語記事の紹介
- インバウンド観光振興に向けた「提言」のプレゼンテーション
(寒河江市のゆるキャラ「チェリン」の旅のストーリー、同キャラを主役とした漫画作品披露、「外国人から見た寒河江の魅力」等々)

②白鷹町

(留学生2人、日本人学生7人)

7月17日(火)

町役場で町長のご挨拶
商工観光課から町の歴史・産業・観光の現状等のレクチャー
東北最古の阿弥陀堂「海山観音堂」見学

7月18～20日

就業体験(3グループに分かれて3箇所を実施)

- ① サンファームしらたか(農業)
 - メロンの玉吊り、圃場の除草等
- ② 深山工房つち団子(焼き物)
 - 登り窯のための薪割り・薪運び、箸置き製作体験等
- ③ やまり菓子舗(和菓子製造)
 - どら焼きづくり、接客等

7月21日(土) (自由時間)

フラワー長井線や自転車で観光資源調査

7月22日(日)、23日(月)

とみひろ(染織・養蚕)、紅花(はな)の館(紅花栽培・加工)、
やまり菓子舗での就業体験

- とみひろ:
 - 古民家の販売・観光スポットとしての整備を見学
- 紅花の館: 紅花摘み・紅餅づくりの体験

7月23日(月)

午後: 観光ワークショップ(JTBGMT)への参加、町の魅力を発信するコンテンツの作成

7月24日(火)

午前: 報告会準備

午後: 地元報告会

- 地元のみなさんに向けてインバウンド推進のための提案や、一步踏み込んで観光ではなく定住を通しての地域活性化という観点からの学生たちの意見を発表



③高畠町

(留学生2人、日本人学生4人)

7月17日(火)

高畠町の郷土資料館にて近世から近代に至る商業や産業に関する講義を受講
県立うきたむ風土記の丘考古資料館にて縄文時代からの歴史講義を受講
弓矢、火興し、石器で野菜を切るなどして料理を作り、縄文時代の生活体験

7月18~21日 午前

企業訪問(ファインと高畠ファーム)
企業の沿革、販売戦略等を社長より受講
工場見学、ソーセージ作り、あるいはジャム等を試食、意見交換

「熱中小学校」訪問
設立趣旨・地方創生の取組み等のヒアリング

「昭和縁結び通り商店街」訪問
商店街の方々へのインタビュー、地元の人々との交流

自転車にて観光資源調査、商店街活性化の提案の検討



7月18~21日 午後

グループワーク(課題解決型学習)
2企業(ファインと高畠ファーム)の海外戦略(JETRO山形による指導)
「昭和縁結び通り商店街」の活性化課題の共有、解決策の立案等報告

7月22日(日)

自由時間

7月23日(月)

商店街ヒアリング、
観光ワークショップ(JTBGMT)参加

7月24日(火)

午前 報告会の最終調整
午後 浜田広介記念館にて報告会
自己紹介・活動報告
2企業(ファインと高畠ファーム)の海外戦略の提言
「昭和縁結び通り商店街」の活性化課題・製作ポスター披露



学生からの提言

①寒河江市

受け入れ体制の改善

1) 交通面(アクセス)

カーシェア、循環バス(本数増やす)、ご当地タクシー(外面の塗装)の導入。バスツアーの拡充。無料駐車場の提供。

2) 言語

パンフレットの準備——多言語対応(中国語)。英語表記。ガイド(学生ボランティア)。勉強会(やさしい日本語、指さし会話)。

3) 環境

クレジットカードやWi-Fi環境の向上。意識改革(おもてなし)。言葉遣い。異文化理解(ベジタリアンへの配慮など)⇒理解のための勉強会の実施。病院などの施設の整備。待ち時間の観光スポットの提供・拡充。1日パスの継続した導入。レンタサイクルと観光タクシー割引のさらなる拡充。

PRの改善

1) 日本のお客さんに来てもらう

新しい観光資源を作る。映画の誘致。地元企業やその製品のブランド化。寒河江市イメージキャラクター、チェリンの活用。

2) SNSを活用

SNSの投稿割引。フォロワー割引。チェリンのTwitter活用。Instagramアカウント作成。ハッシュタグの利用。

3) PR方法

HPIに飲食店、宿泊施設、観光施設をまとめて紹介。旅行会社を媒介とした宣伝。サクランボ以外の野菜、果物、食べ物(酒、焼き鳥、そば、三歳)のPR。バスツアーとして様々な魅力をパッケージ化して売り出す。(HPだけではない)現地の積極的な宣伝。一般向け(学生、留学生含む)に“田舎暮らし”を提供。空港でのPR。TASSHOの中身もHPIに載せる。



②白鷹町

外国人観光客を増やす

- 1) 外国人が観光しやすい環境を整える
 - ① 英語の看板を増やす
 - ② 英語表記の統一
 - ③ 外国語で説明が流れる音声ガイド
 - ④ 白鷹町に詳しい地元のガイド
 - ⑤ 白鷹観光のためのアプリ
- 2) モニターツアーを行う
- 3) 対象国の有名人にSNSで発信してもらう
- 4) 対象国にあった観光プランを考える



国内観光客を増やす

- 1) 富良野のような花畑を作るのはどうだろうか？
- 2) 体験コースの作成

白鷹町：『日本の紅』をつくる町⇒「紅」に限らない観光資源

- 1) 啓翁桜
- 2) 酪農
- 3) 養蚕

住環境の整備

- 1) インフラ整備
- 2) 他市町との連携
- 3) 科学技術の応用



③高畠町

昭和縁結び通りへの提案

- 1) 若者をターゲットに夢を描く場所を作る。
- 2) お店とお店の間のスペースを使って寄せ書きボードを立てる。
- 3) お守りを販売する(自分の夢物語を書いた紙を袋に入れ、夢がかなったらお礼参り)。



たかはたファーム海外輸出戦略

オーストラリア・マレーシア(アジア・オセアニア地域)への進出

- 1) ターゲット層: 料理好き、日系レストラン、The Essential Ingredient。
- 2) 輸出商品: ジャム、ドレッシング、お洒落な商品。
- 3) ギフトボックスなど、売り方を工夫する。
- 4) 山形の特徴を出す。
- 5) 宗教上の課題(ハラールなど)をクリアする。
- 6) 現地の伝統的な食べ物とのコラボレーション。
- 7) 現地企業との協力。
- 8) ウェブサイトの改善: バリエティあふれる食べ方の紹介、多言語化、特徴ある原材料の詳しい紹介。
- 9) 今後の展望・可能性: 時代に合わせたエコパッケージの使用、特色ある原材料の安定確保のために地方自治体・企業と連携、輸送時の品質維持のために流通業者・小売り業者と連携。

スタディツアーに参加して

※ 学生たちの報告書からの抜粋

- 東京に戻る途中の電車で旅行広告を見て、何がこの地域の売りなのか、またアピールとして何が不足しているのかを考えた。今まで旅行の広告をそのような視点から見たことがなかったため、今回の体験で観光について考える頭が鍛えられたように感じる。日本は外国人観光客の増加に加え、生産年齢人口の減少にも直面している。観光はこれらの状況にアプローチしていく上で効果的な切り口となることができるものの一つである。さらに見識を深め、観光を武器にできる人材になりたい。
(寒河江市、日本人学生)
- インバウンドを推進して、人口減少の分を外国人観光客にカバーしてもらおう、という発想自体は良い。しかしインバウンド以前に、国内の観光客を受け入れる体制も満足に整っていないな、というのが正直な感想である。それには Wi-Fiやクレジットカード、医療設備の整備に加え、言葉遣いに表れるやや保守的な内面の他にも、交通面、PR面で様々な課題がある。訪れる前はさくらんぼのイメージしかなかった寒河江市だが、蛍が見られたり、薪割りができたり、美味しいトマトやブルーベリーを自分で収穫して食べられたり、と知られていない魅力的な面がたくさんある。今回のスタディツアーでの提言を改良しながらぜひ市の発展に役立ててほしい。
(寒河江市、日本人学生)
- 今回のツアーを通じて僕が1番改善が必要だと思った課題はやはり「食」である……今台湾では全人口の15%以上の人々がベジタリアンである。また東南アジアにおいてもベジタリアンの人々が増えているだけでなく、彼らの中にはハラールやコーランといった宗教などの理由で食事の制限がある人々も少なくない。こうした人々に対する食事の対応が寒河江では残念ながら全くされていない。私自身もベジタリアンで今回のツアーでは……料亭や弁当など一部の箇所ではベジタリアン対応が用意できず、他の皆と同じ料理を、肉とか魚などを抜いて食べるといったことをせざるを得ない日があった。台湾を中心に、これから先ベジタリアンやハラールなど食事制限があるお客様が寒河江に来てくれた際、彼らが食べられるようなメニューなどの整備を進めていかなければならない。そのためにもまずはホテルやレストランの事業者を始めとする地域の方々に対して、ベジタリアンなどについての勉強会を開き、世界の「食文化」についての知識をつけていく必要がある。また寒河江の「食」の魅力にこのような人たちも触れていけるようにしていかなければならない。例えば今回山形で有名な豆腐屋さん「住吉屋」の工場見学と隣接するお土産屋さんへお邪魔させて頂いたが、そこで僕は人生で初めてカレーパンというものを食べる事が出来た。普段カレーパンにはお肉が必ず入っているため、僕を含め家族全員カレーパンを食べたことがなかったが、そこではおからを使いお肉を一切使っていないカレーパンを販売していたのだ。これはベジタリアンの人々にとってはものすごい魅力的な食物だと私は思う。こうした物もより売り出して広めていく必要があると考える
(寒河江市、留学生)

- 寒河江市は今の時点でも観光資源を十分持っており、それをもっと活躍させ、アピールすると観光増加に繋がると思われる。そのような、寒河江市でしかできないことを観光スポットにするのはこれからの課題だろう。更に、受け入れた観光客は国籍にかかわらず観光を楽しめるというのを目標とし、環境を整え、現地の人々の異文化に対する意識を高めることで活性化は成功する。
(寒河江市、留学生)
- 最後の報告会で、地域おこし協力隊の方に「皆さんの意見を聞いて元気づけられました」と言われた時、そして案内人のUさんに「白鷹についてこんなにたくさん考えてくれてありがとう」と言われた時、涙が出そうになりました。学生 9人による8日間の滞在で何ができるのか、何か変わるのか、正直途中まではよく分かっていませんでしたが、きっと白鷹町の方々の心には何かを残せたのではないかと思います。地元の人だけでは難しいため、私たちのように外から来てその町について真剣に考え、町を刺激してくれる人を募ること。皆で多角的な視点から調査分析し、再発見或いは新発見したものを広めていくこと。そして、一時的なものにせず、活動が終わっても地域のためを思い行動すること。言語・文化的な難しさや受け入れ環境の問題など残る問題はありますが、地元の人々だけで無理なら毎年少しずつでも他の人々を巻き込んで、白鷹町を愛してくれる人・興味を持ってくれる人を増やしていく、それが何より大切なのではないのでしょうか。
(白鷹町、日本人学生)
- 白鷹町での体験の中、特に印象深かったのは「サンファーム白鷹」での体験でした。「サンファーム白鷹」に行く前に、今までの人生の中全く農作業と関わりがなかったので、「きたない、きつい」というイメージしか持っていなかったのですが、そこでの体験を経て農業の「楽しさ」；大自然の中に溶けそうな自分も「自然の一部」の体験；地域農民たちの温かさや素朴ながら満足しやすい生活観を知り、理解しました。荷台の上から見た映画シーンのように遠ざかっていく田んぼと肌で感じた言葉で表現できない気持ち良い風を一生忘れられないと思います。Kさんが可愛い笑顔で「これは稲の子供達だべー。あと二週間くらいに穂になるんだ」と教えてくれた時の楽しさを一生忘れません。
(白鷹町、留学生)



- 地域活性化ワークショップの一環として商店街の現状を踏まえ、集客のための解決策を考える上で、実際に商店街にてお店の方々やお客さんとの交流を図ったり、雰囲気を感じたりとフィールドワークを実施させて貰ったが、その際に町民の方々の温かさに触れ高畠町の素敵な面をまた新たに発見する一方で、地域の人々が一体どこまで地域活性化の必要性を感じているのだろうかという疑問も残った。観光客や消費者目線では活性化が必要不可欠であるように思えても、農作物が豊富にとれ、土地を持っていらっしゃる方々も多い地域において、実際に経営者の立場や商店街の人々からの視点で考えると、そこまで必要に迫られていないのかもしれないと感じてしまうことがあった。町役場を含む行政や企業の方々の地域活性化に対する取り組みや意気込みは強く感じられ、私たちもその思いに同調させてもらい、改善策を私たちなりに考え出そうと努力することができたが、外からの視点だけではなく、地域に住む地元の人々の力強いエネルギー、本気度を引き出していかなければ本当の意味での活性化は進まないのではないかと思い、そこがこれからの課題であると私なりに感じた一週間であった。

(高畠町、日本人学生)

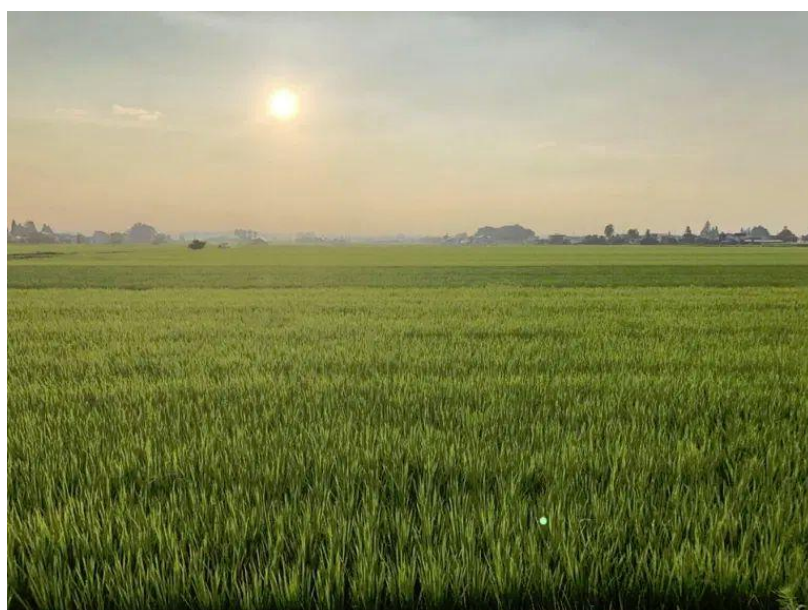
- 山形スタディーツアーに参加できてとても嬉しく思う。高畠町ならではの風景を始めに、皆の優しさと食べ物のおいしさが最高だと思う。毎日新しい経験ができ、山形の美しい自然を楽しみ、高畠町チームと仲良くなり、たかはたファームでのインターンシップで戦略を実際に作ってみたり、昭和縁結び通りの未来コンセプトを作ったり、いい思い出ばかりが作れたりできて感動した。これからも山形県・高畠町のすばらしさを発言するつもりである。

(高畠町、留学生)



実施経費

年度	内訳	金額	負担者
2018年度 夏学期	往復バス代	209780	クラウドファンディング
	宿泊代(1泊2食付) x 7日x 参加学生31人	868000	
	食費等減免(寒河江市)	-24000	
	宿泊代合計	844000	
	ファンド手数料 クラウドファンディング	251164 1304944	
	教員旅費・土産等	182900	東京外国語大学
	JTB・JETRO講師料	54620	
	山形会場使用料等	5916	
	webドメイン料	14709	
	大学負担経費合計	258145	
	昼食と雑費+帰路交通費(約20000円)		学生
	合計	1563089	



成果と課題

成果

初めての事業にもかかわらず、3つの自治体様は、たいへん詳細なプログラムを周到に準備してくださった。学生たちも、受け身ではなく、地域のために自分にできることを貢献したい、という強い思いで参加していることが伝わってきた。

現地報告会に参加した教員たちは、最終日には、学生と地元の職員の方、ご協力いただいた方々と別れを惜しむ姿を随所でみかけたというほど、1週間の間に、深い絆と心の交流があったことがうかがえる。

こうした繋がりをつくることができたこと、これまでご縁もなかった学生たちが、このスタディツアーをきっかけに、山形県のことを真剣に考えるようになったことに、大きな成果を見出すことができたと考ええる。

課題

7月半ばの、最も暑い季節に、とくに山形県の内陸部の猛暑に、学生たちを戸外で活動させることになり、自治体や関係者の方々に、かえって気を使っていたかどご負担を与えてしまった。次年度からは、夏は9月に実施したいということになった。

地域の魅力を学生たちに発見してもらい、それを、SNSを通じて発信する、ということを経験の目標としていたにもかかわらず、SNSの発信ツールや方法について、大学側では事前に具体策を提示できていなかったことにより、学生たちに目標・着地点についての混乱を生じさせることになった。その後、セキュリティ上の問題も考えあわせ、大学として「山形スタディツアー公式ブログ」を開設したが、多言語対応していない、学生たちの自由な発信を制限することになるなど、課題が残っている。

自治体の側からは、受入れ人数と経費の問題、地元事業者からの問題指摘等が示された。まず、受入れ人数は、移動手段である公用車の手配や自治体担当者が目を配ることができる範囲を勘案して、10人未満程度が適正規模ではないかとの指摘がなされた。また、学生の宿泊費の設定(1泊2食4000円)について、受入れ自治体ごとに用意可能な宿泊施設の事情が異なっているため、料金設定が低すぎる等の問題が指摘された。

2018年度冬学期

各自治体の受入案

寒河江市： 2月2日(土)と3日(日)に実施されるやまがた雪フェスティバルのブース出展を中心とし、地域住民との交流、雪かき等による地域貢献、地域の魅力を発見し、発信するための提案作成を主な活動内容とする。

飯豊町： 2月23日(土) 中津川雪まつりのブース出展
JTBGMT(観光商品提案)とJETRO(地元企業の商品輸出提案・SDDs関連)による協
カワークショップ
※JTBGMT: JTBグローバル・マーケティング & トラベル

参加学生

寒河江市 9人

留学生6人(コロンビア、メキシコ、韓国、中国、アメリカ、カナダ)
日本人学生3人

飯豊町 18人

留学生11人(メキシコ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、台湾、リトアニア、
中国、ハンガリー、インドネシア)
日本人学生7人



各自治体での活動

①寒河江市 (留学生6人、日本人学生3人)

1月30日(水)

寒河江市役所到着
寒河江市についての勉強会
開講式: 市長歓迎挨拶
寒河江市の観光についての勉強会

1月31日(木)、2月1日(金)

学びの里 TASSHOでブース準備(ポスター作りなど)
ふるさと総合公園でミニかまくら作り
雪フェス会場にてブース準備

2月2日(土)、3日(日)

雪フェス会場にてブース準備
ブース運営
※ 雪上ステージにおいてブース PR



やまがた雪フェスティバル(2月1~3日)

無料で中国とメキシコの
切り絵を体験できる
ブースを出展し、大盛況!

2月4日(月)

休日
※希望者は田代地区内独居老人宅
で雪かきボランティア・市内観光
- 千代寿虎屋見学
- 慈恩寺見学
- チェリーランド

2月5日(火)

市立白岩小学校6年生との交流
ストロベリーファームで雪中いちご狩り
TASSHOで報告会の発表準備

2月6日(水)

午前: ハートフルセンターで報告会準備
報告会
昼: 副市長との昼食会



②飯豊町 (留学生11人、日本人学生7人)

2月18日(月)

飯豊町到着
オリエンテーション

2月19日(火)、20日(水)

観光: 若乃井酒造
どんでん平ゆり園



2班に分かれてのワーク

- A)「商品の海外輸出に関するプラン提案」(JETRO協力)
- B)「外国人観光客向け旅行商品製作」(JTBGMT協力)

2月21日(木)

午前: 前日までのワークまとめ
午後: 中津川雪祭り自主企画の準備作業

2月22日(金)

中津川雪まつりの準備・手伝い
(料理店準備、かまくらづくり)
夕食交流会



2月23日(土)

中津川雪まつり(2月23日)

運営・手伝い
(売店・かまくら)

2月24日(日)

休日
報告会準備



2月25日(月)

地元報告会

- ①JTBGMTグループ
3グループに分かれて外国人観光客の誘致戦略を発表
- ②JETROグループ
飯豊町の米を海外に輸出するための戦略を発表

学生からの提言

①寒河江市

PR体制について

- 1) ドラマやアニメの舞台にしてもらい、聖地巡礼を狙う
- 2) SNS投稿割引キャンペーン、フォロワー割
- 3) パッケージツアー
- 4) TikTok、Facebook、Instagram、Twitter
学生や観光客によるアカウントでの紹介・発信は限界がある
(スタディツアー期間のみでの更新になりがち)
寒河江市が公式アカウントを作り、こまめに発信していくべき
- 5) Instagram frame
- 6) 日本唯一の手編み草履＝軽部草履の発信(草履編み体験)
- 7) Webページの見やすさ
- 8) 英語版Webページ(例: TASSHOなど)
- 9) 雪フェスティバルの Webページ(マップ以外も English ver.がほしい)
- 10) 日本の伝統的な側面をアピールする(例: 慈恩寺)
- 11) 自分たちでビジネスを始めて雇用を生み出すことで人を呼び込む
- 12) ローカルコマース
- 13) 広告、CM(動画を作りInstagramにアップすれば、広告費用は動画を作る費用だけで済む)
- 14) activity スノーチューブ、バナナボート
- 15) 雪を見たことがない国の人向けに宣伝する

サービスについて

- 1) ハラール認証、ベジタリアンへの対応
- 2) 文化交流やグローバル教育(英語での案内)
- 3) パンフレットがあっても現場の人が対応できない
- 5) Wi-Fi
- 7) 病院(ドクターヘリの稼働に限界があり、急病人に対応できない。観光客を不安にさせてしまう)
- 8) 英語話せる人が必要
- 9) Airbnb
- 10) Uber

②飯豊町

JTB BMT班

- 1) ターゲットを大学生にしぼる。
 - ① 冬はスノーパークや雪まつり
 - ② 夏は川遊び、サイクリング・ドライブ、ゆり園
 - ③ 通年で小中学生と交流、農家民宿での宿泊、インターンシップ・ボランティア
 - ④ ムスリム、ベジタリアン、ビーガンに対応した食事や、多言語の案内など、留学生にもやさしい環境に
 - ⑤ SNSやレビューサイトの活用
- 2) 外国人観光客をターゲットに
 - ① Facebook、ツイッターだけでなく、海外の人がよく使っているメディアの活用
 - ② アピールポイントを強調して魅力をもっと伝える
 - ③ HP、パンフレットの改善
- 3) 家族連れをターゲットに
 - ① 子連れ割引
 - ② 子供向けの山村体験プログラム

JETRO班

飯豊米の海外輸出戦略

- 1) 強み(品質、自然環境、豊富な品種等)を活かす
- 2) 輸出相手国ごとに戦略を練る
※米の輸出がむずかしい国に対しては、米粉クッキーなど加工品として輸出



スタディツアーに参加して

※ 学生たちの報告書からの抜粋

一口に田舎といってもさまざまな現状があり、それぞれに対して解決策を見つけていくことが大事だと思いました。今後もこうしたインバウンドツアーに参加したり、日本各地に実際に行ってみることで、より日本について理解を、深めていきたいと思うと同時に、自分も日本に来た外国人観光客を案内できるように英語力を高めていきたいと思いました。8日間普段はできないような貴重な体験をさせていただき本当に実りある8日間でした。寒河江市の方々には大変お世話になったので、これからいろいろな形で還元していきたいです。最後に、このツアーに関わってくださった方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

(寒河江市、日本人学生)

Overall I felt that my experience in Sagae was a very positive one and I am glad that I went. Through interacting with the local community we were able to see what could be used to create new opportunities of tourism, such as through volunteer work, and what areas could be improved to grant an overall better experience, such as wifi in public buildings. With my group, we were able to experience many new things for the first time, such as snow, and we were able to create friendship that will last past the end of this study tour. The study tour has given us irreplaceable memories and experience that we can cherish, and has allowed us to meet a new community and city that we hope to one day visit again.

(総じて寒河江市での経験はとて素晴らしいもので、行ってよかったと思います。地元のコミュニティとの交流を通じて——たとえば、ボランティア活動を通して——新たな観光客の誘致に何を利用できるか考えることができました。また、観光客の便宜をはかるにはどのような点を改善すればいいかもわかりました(公共の建物の中では Free Wi-Fiを使えるようにするなど)。雪の中での活動など、グループのメンバーとともに初めて経験することもたくさんあり、そこで芽生えた友情はスタディツアーのあとも続くと思います。得難い思い出やすばらしい経験ができたのはもちろん、いつか再訪したいと思わせてくれるコミュニティや町と出会うことができました)

(寒河江市、留学生)

For me it was the first time to experience this kind of weather, even though we have cold weathers in some parts Mexico it never snows, so I was truly excited to be able to see what it was like to live under this conditions.

When we were arriving to the city you could already appreciate a beautiful landscape, mountains covered in snow with all really tall trees and a river, since the first moment everyone in Sagae was so kind to us, and made you feel welcomed. The hotel we stayed at was beautiful, the staff really make you feel like home, they offer a menu with the traditional dishes of the Japanese culture, so we got the chance to taste many food that we would not find that commonly in Tokyo, also they knew that for some of us it was our first time in the snow so they made sure that we had a fun time and prepared some activities for us to play in the snow.

(このような気候を経験するのは私にとって初めてのことでした。メキシコにも寒い地域はありますが、雪が降ることはありません。そのため、このような気候のもとでの暮らしを体験できることには本当にわくわくしました。寒河江市に着くとすぐに、美しい景色や雪に覆われた山々、背の高い木々や川が出迎えてくれました。初めてお会いしたときから寒河江市のみなさんは親切で、私たちを歓待してくれました。今回泊まった宿もきれいで、宿のスタッフのおかげで実家に帰ったようなくつろいだ気分になれました。宿では昔ながらの郷土料理があれこれ出され、東京ではあまりお目にかかることのない食べ物を数多く味わう機会に恵まれました。また、雪を見るのが初めての学生もいるということで、雪をたのしめる活動の機会も作っていただきました)

(寒河江市、留学生)

「飯豊の春はばあちゃんでもはっとするくらい美しい」

なかつがわ農家民宿「いからし本家」のあいばあちゃんは、にっこりほほえんで私にそう教えてくれました。今年の雪は去年の2分の1だそうです。雪の積もることの少ない長崎県で生まれ育った私は、それでもその2メートルの雪の壁に大変驚かされました。雪国はしばしば色のない世界と表されます。葉の落ちた木の幹、針葉樹のとげとげの枝葉、雪に落ちるそれらの影、雪の広っぱの間を縫うように流れる川の流れ、雪崩に時折現れる土、それぞれがはっきりと濃く黒でした。そしてその黒たちを圧倒する雪の白は目に優しく、きらきらと輝いています。これがまさに日本の冬の原風景なのか、と、私はとても感動しました。冬は止まっているように見える山の風景も、春になるときっと文字通り動き出すのだろう……春の姿へ想像力が掻き立てられるのは、雪深い冬と、喜びもひとしおの春とが、すっかり違った生き物のようだからなのだと思います。飯豊町での1週間を通して私が感じたのは、このような季節の変化の美しさ、そしてその魅力をどのように伝えていくかということです。また、民泊を通して飯豊町に住む方々とたくさんお話したことで、観光とその地域に住む人々の生活とのバランスに目を向けることの重要性についても再認識することができました。

(飯豊町、日本人学生)

飯豊町に出発する数日前まではやや後ろ向きな気持ちだったものの、いざスタディツアーを終えてみると、とても楽しかった。なかなか濃密なスケジュールだったこと、他人と1週間共同生活を行ったという点では少ししんどく感じたときもあったものの、最後にはみんなと仲良くなることができ、勉強したかった「観光」についても一歩を踏み出すことができたため、参加してよかったと思う。なかつがわ農家民宿の皆さんとも、1週間お世話になったことで家族のような絆が生まれたと思う。個人的には、先月祖母を亡くしたため、新しくおばあちゃんが増えたような気分で嬉しかった。今回は授業という形だったものの、今後はボランティアや旅行など、他の形でも飯豊町と関わっていけたらと考えている。観光を考えるうえで、インパクトを求めるのか地域のペースを乱さないようにするのか……など配慮・重視するポイントは様々で非常に複雑であった。飯豊町に限らず、日本国内全体が今後はインバウンド事業を進め、外から人を入れることで国・地域の維持に努める必要があると思うので、今回学んだノウハウをその場限りのものにせず、今後に活かせるよう努めたい。

(飯豊町、日本人学生)

今回のスタディツアーは大変楽しく、とても勉強になりました。中津川の民宿も体験でき、民宿の人達と家族のような雰囲気でも時間を過ごさせてさらに日本の「おもてなし」がわかるようになりました。そして参加者の皆さんと日本にきて、初めてこんなに近い友達関係を作ることができました。

ランターンを上げることもちなみに私のバケツリスト(死ぬまでにやりたいこと)の1つでした。

雪まつりでは日本の文化の餅つきやフォークダンスも実際にやってみて面白かったです。かまくら担当として雪が意外と固く塔までは作れませんでした。色や飾りをつけて可愛く作れたと思います。それから、外国人の姿がすぐばれる私はよくテレビにも映っていてとても面白かったです。

初めて雪を見た人もいましたが、私はこの量の雪を初めて見ました。本当の雪国でした。

(飯豊町、留学生)

I got many benefits from this tour. The first benefit is that I got the many friends to communicate. The second one is that I could learn many Japanese culture and also Japanese language. The third one is I got a new family in Iide town. It has so many other benefits of this tour like snow experiences that I can't get in my country, knowledge that I can't study only one and so on.

(このスタディツアーからは得るものがたくさんありました。まず、交流できる友達を大勢作ることができました。次に、日本の文化やことばを数多く学ぶことができました。さらに、飯豊町に新しい家族ができました。ほかにも、母国ではできない雪と戯れる経験や、大学の勉強だけでは身につけられない知識など、得るものの多いツアーでした)

(飯豊町、留学生)

Students stayed in Nakatsugawa Farmer guesthouses, and I have so much respect that they can accommodate tourists with any food restrictions. It creates a very welcoming environment, they can provide tourists halal foods, muslim friendly, vegetarian, etc. I believe this is a great strategy to welcome more diverse tourists from any religious backgrounds or cultures. As a muslim myself, I feel so appreciated on how the hosts treated me with these food restrictions. I have stayed in other places where they do not provide muslim friendly foods, and instead of providing the foods they gave me vegetables only, the problem is I am not vegetarian and I cannot eat only vegetables. In Nakatsugawa Guesthouses, I had chance to eat chicken, fish, or meat. And everything was muslim friendly/halal.

(学生たちはなかつがわ農家民宿に泊まりましたが、食べられる物に制限のある観光客に対応しているすばらしい宿で、歓迎ムードを演出していました。宿ではハラールフードや、イスラム教徒向けの食事、ベジタリアン向けの食事等を提供しており、それは多様な宗教的・文化的背景を持つ観光客を受け入れるのに大いに強みになる点だと思います。私自身イスラム教徒で、食べられる物に制限があるため、民宿のそうしたもてなしをとってもありがたく感じました。前にほかの場所でイスラム教徒向けの食事を提供していない宿に泊まったことがありますが、そこでは野菜だけを勧められました。問題は私がベジタリアンではなく、野菜だけで食事を済ますことができないことでした。なかつがわ農家民宿では鶏肉や魚や牛肉を食べる機会がありました。そのどれもがイスラム教徒向け／ハラールでした)

(飯豊町、留学生)



実施経費

年度	内訳	金額	負担者
2018年度 冬学期	往復バス代(世界展開力強化事業)	898040	東京外国語大学
	宿泊代(1泊2食付) x 7日 ÷ 2 x 参加学生27人	378000	
	食費等減免分(寒河江市)	-40000	
	宿泊代合計	338000	
	教員旅費・土産等	218962	
	JETRO講師料	10000	
	大学負担経費合計	1465002	
	昼食と雑費(約2万円) + 宿泊費の半額(14000円)		学生
	合計	1465002	

成果と課題

成果

雪フェスティバル、雪祭り、と山形の雪をどのようにインバウンドに活用するかが、自治体の方々の課題設定だった。とくに、留学生にとって、雪を見たこともない留学生もいたため、とても楽しいスタディツアーだったと見受けられた。受入れ側の自治体様は、通常でも準備がたいへんなイベントに合わせての受入れだったため、たいへんご負担だったと思われる。

また、飯豊町様では、「農家民宿」という形で、地元の家庭で4~5人ずつの学生を宿泊させ食事など世話をしてくださった。地元の方との交流の機会となり、学生たちにとってはとくに貴重な経験となった。

課題

今回参加した留学生の多くが、1年間の短期留学の学生(ISEP)で、10月に来日したばかりのため、日本語の運用能力が十分ではなく、英語でコミュニケーションをとる必要があった。そのため、事前・事後学習の場では英語で授業が行われたが、スタディツアーの現場では、意思疎通が難しい場面があったようである。逆に、こうした短期留学生の中には、スタディツアーに参加したいにもかかわらず、日本語に自信がないとして、参加を断念する学生もあり、言語問題が課題として残った。

その他、学生たちの地元に対する知識や地域活性化に関する学習など、事前に大学側で知識の注入などの教育が必要であるとの指摘が、自治体側、大学側双方からなされた。

また、自治体の方からは、やはり適正な受入れ人数と、冬場の暖房費等の経費面で問題が指摘された。

2019年度夏学期

各自治体の受入案

- 寒河江市：** 市内の観光スポットや体験型観光の視察、体験、地域住民・観光関係事業者へのインタビューを通し、インバウンド観光における課題・その解決策について考察・提案してもらう。
- 飯豊町：** カヌー体験、町歩き、農家民泊、農業体験、酒造見学などを通し、「着地型観光」による地域活性化について体験・考察してもらう。
- 白鷹町：** 町内観光客の増加による地域活性化を図るため、フラワー長井線と町内観光資源をどのようにつなげられるか、インバウンドの可能性も含め、若者の視点で提言してもらう。
- 高島町：** 町が抱える地域特性やインバウンドにおける課題・問題点をみずからの体験を通して認識し、その活動のなかで課題解決する道筋や人と地域とのつながりを学び、将来を担う人材を育成することを目的とする。

参加学生

- 寒河江市： 9人**
留学生4人(アメリカ、モンゴル、オーストラリア、韓国)
日本人学生5人
- 飯豊町： 9人**
留学生3人(ブラジル)
日本人学生6人
- 白鷹町： 12人**
留学生3人(マレーシア、エクアドル、中国)
日本人学生9人
- 高島町： 6人**
留学生2人(中国、韓国)
日本人学生4人



各自治体での活動

①寒河江市

9月24日(火)

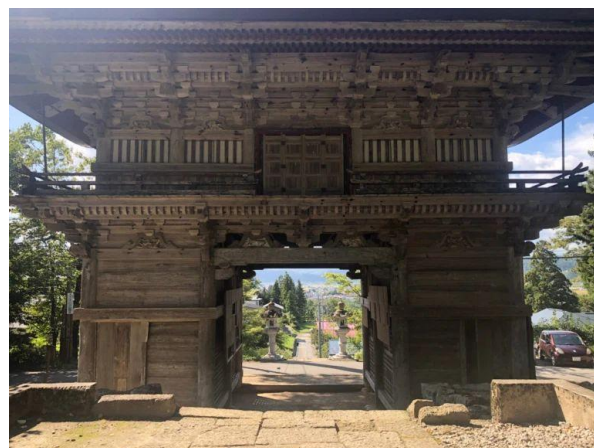
寒河江市到着
開講式、市長挨拶
行程の確認
TASSHOへ

9月25日(水)

チェリーランド、道の駅見学
慈恩寺見学、写経体験
地元の方との交流会

9月26日(木)

修験の道ウォーク
ぶどう狩り(農業関係者インタビュー)



9月27日(金)

市内観光(山寺、グリバーさがえ、
ふるさと総合公園)
自由散策

9月28日(土)

慈恩寺(おもてなし事業実施)

9月29日(日)

プレゼン準備・コンテンツ作成

9月30日(月)

地元報告会(提案プレゼン)



②飯豊町

9月24日(火)

飯豊町到着
オリエンテーション
屋台村いいでらでの夕食

9月25日(水)

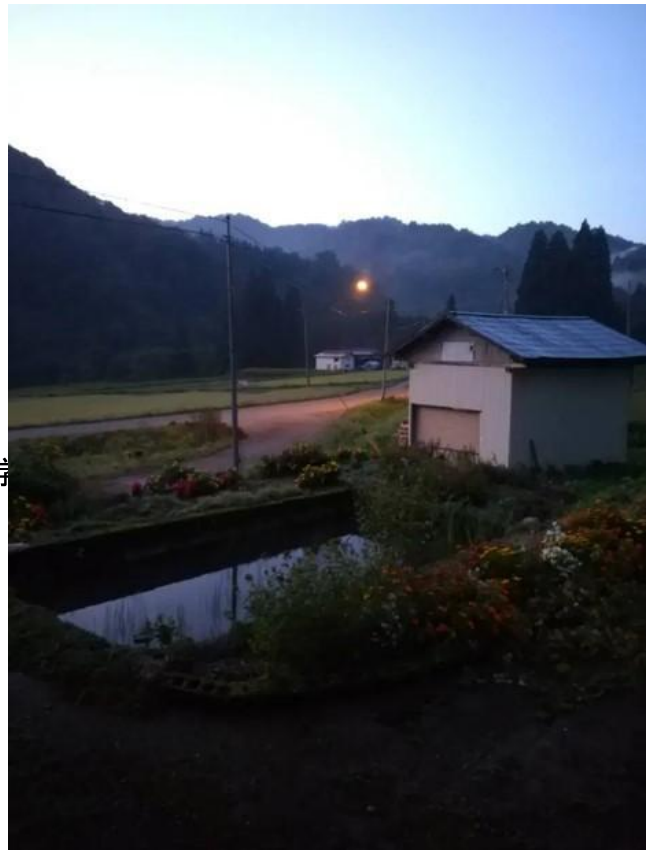
午前 天養寺観音堂、田園散居集落見学
午後 若の井酒造見学
めざみの里観光物産館
入村式、各農家民宿へ

9月26日(木)

午前 カヌー体験(白川ダム湖)
午後 農業体験(稲刈り、精米見学)
雪室見学

9月27日(金)

午前 源流の森で森林教室、木工クラフト
午後 ワークショップ



9月28日(土)

SPIKEでけん玉体験
田中牛畜産で牛舎見学
源流の森で冒険教室、陶芸教
室

9月29日(日)

報告会準備

9月30日(月)

地元報告会

③白鷹町

9月24日(火)

白鷹町到着
オリエンテーション

9月25日(水)～27日(金)

フラワー長井線、どりいむ農園直売所、深山の伝統工芸の工房、パラグライダーズ
クールヤナ場、白鷹織の工房等視察
フラワー長井線(山形鉄道)への観光誘客のための提案を目標としたヒアリングと
ディスカッション

9月28日(土)

自由行動

9月29日(日)

提案プレゼン準備



9月30日(月)

地元報告会



④高畠町

9月24日(火)

高畠町到着
郷土資料館での学習(館内説明)
ゆうきの里さんさんでカレーパーティ

9月25日(水)

午前 企業研修①: 三奥屋 掬亭
会社説明、商品紹介、熟成蔵見学、工場見学
午後 ワークショップ

9月26日(木)

午前 企業研修②: 米沢市古志田
伊達茄子の生産農家
道の駅よねざわ 販路
生産農家見学
午後 ワークショップ



9月27日(金)

午前 よねおりかんこうセンター見学
高齢者の居場所づくり事業(和楽茶の間訪問)
午後 昭和縁結び通り商店街でヒヤリング
商工観光課の取り組み紹介

9月28日(土)

休日、最終プレゼン準備
町内の若者キーマンとの交流会

9月29日(日)

午前 もっくる視察
午後 プレゼン準備

9月30日(月)

午前 報告会準備
午後 地元報告会



学生からの提言

①寒河江市

広告手段

- 1) SNS投稿割引の提供、地域の関連性をさらに強化することで SNSを活発化する
- 2) SNSで「映える」写真——観光客自身に「映える」写真を撮ってもらって拡散する

交通手段

- 1) 自転車の活用を促進する
- 2) Uberのようなシステムを導入する

慈恩寺

- 1) 案内板の設置
- 2) 写真スポットの整備
- 3) 下馬橋の整備・茶屋の設置
- 4) シャトルバスの常設
- 5) ウォーキング道の整備

修験の道

- 1) 初心者向けコースの設置
- 2) 雰囲気づくり
- 3) ロープ、木などに目印を設置
- 4) 事前学習:ガイダンス施設にて申し込み
山伏に関する基礎知識の提供
お経の練習

具体例

- 1) 慈恩寺巡り山伏の一日コース)
- 2) さがえワインナイト
- 3) TASSHOに泊まろう



②飯豊町

観光プログラム提案

- 1) コンバインに乗れるお米の収穫体験
 - ターゲット: 都市部に住む、親が 30～40代で子供が小学生ぐらいの家族
 - 内容: 長靴、軍手、マスク、かま、作業着を無料レンタルし、気軽に手ぶらで参加できるプログラム。飯豊連峰から流れる清流で育まれた飯豊のおいしい新米をおにぎりで味わう体験も。精米所では飯豊町産の精米したてのあきたこまち、つやひめなどを 1キロからお土産に買えるようにする。5キロ以上お買い上げの方は、ご自宅まで有料で配送可能にする。
- 2) 飯豊のスローライフの勧め
 - ターゲット: 都市部で暮らし、自然との触れ合いが不足している20～30代の若者や様々な年代の家族
 - 内容: カヌー体験やキャンプ体験、星空観察
- 3) 日本の隠れた伝統 ――マタギ体験
 - ターゲット: 子連れの家族
 - 内容: 民宿＋山の散策、もしくはマタギ体験

翻訳ツアー

翻訳しながら飯豊時間を満喫

- ターゲット: 首都圏の大学生
- 内容: 民宿に泊まり、午前中は町のパンフレットやちらしを英語やその他の外国語へ翻訳する作業を行い、午後は飯豊町での生活を堪能する

おいしい別荘体験

食育と空き家での別荘体験

- ターゲット: 山形県内および近郊の都市部に住む子供のいる家族連れ
- 内容: 食材に触れ、農家民宿で調理実習、空き家に宿泊

スノーツアー

初雪体験

- ターゲット: 外国人家族
- 内容: どんでんスノーパークでの初雪体験、雪フェスティバル、かまくらでの夕食

職業体験

- ターゲット: 県内か周辺の都市部に住む小学生
- 内容: 農業、畜産業、観光物産館、鉄道での職業体験と農家民宿

③白鷹町

観光客誘致について

- 1) フラワー長井線旅行商品アイデア
 - 1泊2日里山満喫プラン
 - 地元の食材列車
 - 日本の原風景・白鷹町を周遊
 - 白鷹づくしの郷土料理
 - 様々な体験プラン
- 2) その他の施設について
 - 観光施設同士の連携
 - インバウンド向けアイデア
- 3) ヨーロッパの人々の誘致
 - パッケージプラン
 - プロモーション: インスタグラム、パンフレット、HPの改善(英語版の作成)
- 4) 観光資源を利用した知名度向上
 - レンタサイクルの整備(アクセス向上)
 - パレス松風を観光の拠点に
 - どりいむ農園とあゆ茶屋: PR改善
 - フラワー長井線: 車内スペースの活用、パンフレットの置き場の改善、制服の色など話題性をつくる



④高畠町

「高畠ステイ」の提案

通過点から目的地へ

- 1) スタディツアーを活用:参加者が身のまわりの人と高畠町を結ぶ
- 2) 地元の学生との交流

たかはたブランドの知名度向上

- 1) ロゴの変更
- 2) 食品・流通大手とのコラボ
- 3) 高級スーパーでの物産展
- 4) ふるさと納税の返礼品として

豊富な観光資源を活用して人口流入を目指す

観光産業の振興⇒第三次産業の拡大、サービス水準の向上、娯楽施設の増加
⇒若者の定住

海外販売戦略立案(JETROワーク)

三奥屋への提案

- 1) パッケージの改善:目と心を惹くパッケージ、健康に配慮、QRコードの活用
- 2) 小売店での販売方法:試食、レシピの配布、陳列の工夫
- 3) SNSの活用:Instagramでの発信



スタディツアーに参加して

※ 学生たちの報告書からの抜粋

私がこの山形スタディツアーに参加した理由は二つある。一つ目は、将来観光業にも少し興味があるからだ。JRの観光広告を見ていて、こういった形で地域の魅力を発信できればと昔から考えていた。二つ目は、山形県の人々と交流したかったからだ。私は東北地方に行ったことが一度もなかったが、東北の人々はとても心優しいイメージがあって、実際に交流してみたいと思っていた。それに私は日本語方言に興味があるため、地域の人々と話す中で山形弁を聞きたいと思っていた。以上の理由で参加した私は、このスタディツアーで留意した点が一つあった。それは「地霊」である。篠原教授が事前学習会でおっしゃっていたことで、ローマ神話における Genius loci の訳である。私はこのお話に非常に共感し感動した。歴史が堆積し、場所が発する霊気を地霊というのである。にわかには信じがたい事柄かもしれないが、これまでの私の生活でそういったものを感じるがあった。中学の修学旅行で東大寺を訪れた時、それを最も強く感じたのである。事前学習で正岡子規が「柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺」の一句を詠んだ地である。夏目漱石の句への返歌で、東大寺の大仏のイメージが強くなってしまった。法隆寺に変えたとのことだが、この句が実際に詠まれたのは東大寺なのである。正岡子規は病気のため喀血に悩まされており、晩年は特に苦しんでいた。その中で病気をおして念願の奈良旅行、東大寺を訪れたのである。私が修学旅行で東大寺を訪れた時は、ここに子規がいて句を詠んだのだという感動が沸き上がってきた。それは子規への感動ではなく、かつて東大寺を訪れた数えきれない人数の思い出に感動したのだ。そしてその感動は積み重なり、どこへ行くでもなくただその地に蓄積される。そういった丁寧な感動を、最近の私は忘れてしまっているように思ったのだ。山形スタディツアーを通して、もう一度その感覚を取り戻し、観光客にもそういった点を理解してもらえるようなアプローチをしていきたいと思った。

(寒河江市、日本人学生)

このプログラムに参加する前は地域活性化とは観光客を増やすことが主な目的であり、市や県などの行政がそのほとんどの仕事を担うと考えていたが、実際は地域の観光協会の方や町おこしの方が重要な役割を果たしているということがよくわかった。様々なイベントを考えて実施したり、ガイドをしたりすることには多くの人手が必要であり、その地のことをよく知っていなければならないだろう。観光に来る人の多くは自分となじみのない場所にきてその場所の雰囲気や生活環境を楽しみたいと思っているため、そのような地域と結びつきの強い人たちは必要不可欠である。また、事前学習で学んだように観光公害などの問題があるため、観光客を増やせばよいというわけではないのも現地に行ったことでよりよく理解することができた。もし慈恩寺や修験の道ウォークで非常に多くの観光客がいたら、荘厳な雰囲気が薄くなってしまったり長い行列ができてしまったりして皆が十分にお参りできなくなってしまうかもしれない。観光客を増やして活性化することは必要なことではあるが、バランスを考えるのは難しいことだということが分かった。また、現地の方が仰っていたように東北に来る外国人はリピーターが多く、日本らしさを求める人が多いため外国人観光客のためにと英語や多言語の看板などを用意することが必ずしも良いことではないというのは私にとっては新しい気づきであった。インバウンドの推進について考えると言語の問題が真っ先にでてきて、外国人が不自由なく観光するために東京などのように多言語の看板を設置するというのは当たり前のように進めるべきことだと思ってしまうが、場所や観光客の需要によってやり方を変えなければならないというのを実感することができた。慈恩寺との比較で訪れた山寺では基本的に場所の説明などの看板が日本語のみで書かれていて英語はあまり見られなかったにも関わらず、外国人も多く来ていたため、日本らしさを楽しめるようにあえてそのようにやっているのだということがわかった。このスタディツアーでは地域の現状に合わせた活性化の方法があり、それを考えるためには現地でよく調査することが重要であるということを実感することができた。事前に勉強はしていたが、現地で様々な人の話を聞いたり、実際に動いてみたりして初めて気づくことが非常に多かった。このようなプログラムに参加しなければわからなかったことであり、良い機会であった。これからもこの経験を活かし旅行などの時にもただ行くだけではなく今までは異なる視点で様々な地域を見たいと思う。

(寒河江市、日本人学生)

美しい自然の風景や豊かな地元の食材、温かい人々など、飯豊町の観光資源を余さず観察してきた。自分自身が飯豊町の魅力の虜となり、観光商品の新しいツアーを考え発表した。観光業界の方から町役場の人、一般の方までもがメモを取りながら聞いて下さる姿に、町全体で地域活性化について考えておられる姿を見たと思う。今回のツアーでは、短期間の滞在で飯豊町の魅力に触れながら、地域活性化の問題を考える勉強の機会を与えて頂いた。良い面ばかりが強調されたが、農家民宿の方との話しでもあったように、高齢化や空き家など、町は非常に深刻な問題を抱えている。短期間で味わった魅力だけに目を取られ過ぎないように、今後も、地域活性化のために何が必要なのかを考えたい。日本が抱える問題は地方から始まっている。観光から、新しい雇用や魅力的に映る仕事が創出され、若い世代が集まり、持続可能な地域活性化が達成できるようになることを期待する。

(飯豊町、日本人学生)

わずか東京から4時間でコンビニもなく、星空が広がる場所で、我々とは異なる生活をしている人がいるということに衝撃を受けた。

飯豊町は町の魅力づくりや観光資源の発掘には力を入れている一方で、情報発信力が弱みであると気が付いた。例えば、飯豊町のウェブサイトは観光地の情報を得るために何度もリンクを踏む形となっており、少々見にくいと感じた。観光地ごとに項目を分けるのではなく、できるだけ少ないページに多くの情報がまとまっていたほうが見やすいと思う。

スタディツアーの開始前は、まだ日本に来て半年ほどで日本語のあまりできない留学生たちとのコミュニケーションに不安を感じていたが、彼らとコミュニケーションを取ろうと考えるうちに彼らの出身国であるブラジルや、母国語であるポルトガル語に対して興味が湧き、また自分の英語力の低さを実感した。外大にいても留学生とこれほど親密に交流できる機会はあまりなく、また留学生に対して通訳のようなことをしたのも非常に楽しい経験だった。

(飯豊町、日本人学生)

A good point that really reminded me from Brazil and made me happy in life is how the nature is so wide and beautiful with mountains, trees and rice fields everywhere, it is so different from Tokyo that is completely taken by giant building where you can't see nature like in the countryside like life, so I used this as one of the main points of observation as I would love to live in a place like that more than in the city taken by giant buildings, and for me it is one of the principal point that attracts foreigners and visitor and we should use it., because the nature makes it different from other places and with so many opportunities of activities that brings the essence of the countryside, we sure have good places to use in order to promote the city.

(飯豊町でブラジルを思い出させ、私を幸せな気分にしたのは、自然が豊かで、山々や木々やいたるところにある水田が非常に広々としていて美しいことでした。巨大なビルばかりで、飯豊のような地方で見られる自然を見ることができない東京とはまるで異なります。私自身は巨大なビルに占拠された都市よりも飯豊のような場所で暮らしたいと思うので、そこに注目しました。外国人や観光客を呼び込むうえでもっとも強調すべき点だとも思いました。飯豊の自然は特別で、田舎暮らしのエッセンスを味わわせてくれるアクティビティの機会も多く、この町の観光を促進するうえで利用できる素晴らしい場所がたくさんあるのはたしかです)

(飯豊町、留学生)

This study tour allowed me to have unique experiences in Japan that will be forever in my memories, since I was able to learn a lot by being in direct contact with Japanese families and traditional Japanese culture. By providing ideas to improve the tourism in Yamagata Prefecture, more specifically in Iide-machi, I hope to have returned at least a small portion of the huge gains I got from this opportunity. It also increased my interest in how to revert depopulation of rural areas, which is something I am now considering getting more involved with in future. (このスタディツアーによって記憶に残るユニークな経験をさせていただきました。日本人の家族と交流し、伝統的な日本文化に直接触れることで多くを学ぶことができました。山形県——とくに飯豊町——の観光促進のアイデアを提案することで多少の恩返しができるのいいのですが。また、地方の過疎化を食い止め、人口増加に転じさせるにはどうしたらいいのかという問題に興味を抱き、その問題に今後より深くかかわっていこうと考えるようになりました)

(飯豊町、留学生)

当スタディツアーへの参加が決まり事前学習の一環としてアレックス・カー、清野由美『観光亡国論』(中央公論新社、2019)を読んでいく中で観光公害や観光投機など観光誘客が各地の観光地にもたらしてきた悪影響が多く紹介されていたため、プログラム開始時には、観光誘客に努めたところで白鷹町の負担が増えるばかりで地域活性化には繋がらないのではないかという考えを持っていた。また、仮にインバウンドが成功したところで地元の伝統工芸や産業に深い興味を持ちその後の発展に寄与する者は現れないのではないかという懸念もあった。

しかし、実際に現地を視察する中でこれらの考えは必ずしも正しくないことがわかった。まず、寄せられる注文のうち全てを受けることができなくなるほど職人の数が不足している白鷹織の工房である小松織物工房を視察した際には、高校を卒業してすぐ白鷹織の職人になるべく京都から弟子入りした女性が実際にいることがわかった。また、一連の視察や休日の自由行動を経て白鷹町の自然や伝統文化に触発され、将来は白鷹町に住み養蚕業を営みたいと考えようになった留学生も本学学生の中から現れた。

このように、白鷹町を訪れて町のことを知るうちに、実際に白鷹町に移住し、町の産業に関わろうとする人々がいることから、少子高齢化と過疎化が進む社会で技術の後継者や定住者の数を増やすにも知名度が必要であることがわかった。また、そのためにはインバウンドの推進は有効な手段であることを実感することができた。

(白鷹町、日本人学生)

白鷹町では、豊富の観光資源を持っている。たとえば、紅花、深山和紙、郷土料理など。白鷹町に滞在する6日間、各観光施設を回して気づいたのは各施設は自分のパンフレットだけを用意して、観光施設の連携が欠けていることである。パンフレットを相互に設置し、ホテルと駅などの場所がモデルルートを薦めるサービスを提供すればいいと思う。また、複数の施設を利用すると割引をもらったり、特典をつけたりするほうがいい。たとえば、ホテルで二泊とまると、1割引の食券がもらえ、三泊、四泊泊まると、和紙漉きの無料体験券を追加するなど。そして、PRの面から、ホームページのデザインを改善する必要がある。長井線を復活するためには、ホームページと地図などを利用して、各駅の特徴をちゃんと説明する。具体的には、「鎌倉の江ノ電」の「りおりくん」で沿線散歩 『おすすめ観光スポット10選』などの宣伝方法が参考になれると考える。みんなの知恵を絞るために、周りの高校生或いは大学生を募集して、ホームページデザインのコンテストとかを行わればどうだろうか。そして、SNSとINSTAの情報発信も有効的に利用できれば、お金もかけずに白鷹町の情報がより調べやすくなると思う。

(白鷹町、留学生)

百聞は一見に如かずという言葉が示す通り、まずは地域活性化に取り組む自治体や企業の方に足を運んでみたら、机上で繰り返される少子高齢化問題や若者の都市流出などの地方が抱える問題の現実が少し理解できるのではないかとこのスタディツアーに参加しました。実際に高畠町の人々や施設を訪れることで、これまでの考えがとても深まりました。まず気付いたことは、生産者と消費者の距離が自分が想像していた以上に遠かったことです。研修2日目に三奥屋さんの契約農家さんの畑を3件訪れました。どこもおじいさんとおばあさんの2人だけで広い土地で複数の種類の農作物を作っていました。現在も細かい雑草抜きや間引き、収穫など人の手作業で行わなくてはならないことが多く、腰を屈めながら収穫をする農家の皆様を目にしてこんなに大変な作業なのかと驚きました。傷がついているなどして出荷が出来ないいわゆる「不良品」を含め、様々な農作物をおすそ分けして頂いた時はもったいないという感情が大きくなりました。また、工場見学がテレビなどの影響で流行し、今も人気が続いているので、お酒の漬物の製造過程の見学をさせて頂いたときはとても驚きました。昔ながらの製法を貫いているという魅力は実際に見ることでより知ることが出来ると思いました。そして、生産者の方々がいることに思いを馳せず、スーパーに陳列された食品を当たり前のように見ている自分自身に疑問を感じるようになりました。農家の方々のことをよく知ることが出来れば、地産地消という環境的にも、地域的にも望ましい形の実現が可能になるのではないかなと思うようになりました。

この生産者と消費者の心理的距離については、事前学習で主に考えた現地の人々と海外のインバウンド客の心理的距離についても言えるのではないかと思います。インバウンド客のマナーの欠如は文化的な面から見て多少は仕様が無いものかもしれませんが、目に見える楽しい物事を消費していただくだけでは、利益は出せるものの、住む人の迷惑となったりするかもしれません。

より生産者と消費者とのつながりが近くなれる環境づくりが今後大切になるのだと思いました。

(高畠町、日本人学生)

「地域活性化」という概念を頭で理解することと、実際の現場に行ってみることとの間には、大きな溝があると思った。私は事前学習やこれまでの知識から、「都市一極集中」や「地方での人口流出」といった現代日本社会が抱える問題を認知していた。ただ、この問題をどこか他人事のように感じていた。しかし最近、私の地元・宇都宮の PARCOが閉店するというニュースを見てから、問題が深刻化していることに気付き、実際に自分で実際に現場を見てみよう今回スタディツアーに応募したのである。

スタディツアーに参加する以前は、地域活性化をするには具体的にどのような要素が必要か想像つかなかった。ただ、スタディツアーを終えた今、重要な要素をひとつ挙げるとすれば、「媒介者」の存在だと答えるだろう。ここで「媒介者」とは、外部から刺激をもらいつつ、内部に働きかけを行う人のことを指す。例えば、今回のスタディツアーの場合では、高畠町役場の職員の方々や商店街の方々のことだ。この「媒介者」の方々が、高畠町をより良くするために、外部の意見を柔軟に取り入れつつ、奮闘する姿がとても印象に残っている。そして、この人たちが頑張る限り、高畠町は発展していきたくらうと強く感じた。

スタディツアーを通して、地域活性化のためには、外部の意見を取り入れつつ、内部のために尽くせる人材が不可欠であることを学んだ。このスタディツアーは、山形県の方々とわれわれ双方に新たな気付きをもたらす、大変有意義なプログラムだと感じる。今後もぜひ、続けていくべきだ。

(高畠町、日本人学生)

地元の高齢者たちが存在価値を実現するために、居場所づくり事業に力を入れた結晶として、「和楽茶」という憩いの場ができました。おじいさんとおばあさんたちのはなしを聞いて、その実行力に尊敬します。そして彼らの人生に対する熱意が十分感じ取れます。また、高島町屋内遊戯場を見学しました。人口の少ない田舎でも、子どもたちはきれいな場所で遊べられるし、いろいろ知的開発のおもちゃに触れながら、楽しく成長していくことは、大都会とかわりがないです。この点について私はいろいろ考えました。「先進国」とはなんだ？私の考えでは、都会の高層ビルではなく、裕福層のぜいたくな生活でもないです。年寄でも、子どもでも、どこにいても尊厳のある生活を送ることができ、質の高い教育を受けられることこそ、「先進国」の最大の特徴です。「格差社会」と言われる中国において、大都市の発展はものすごいスピードだが、内陸の農村部はまだきれいな水道水を飲めない村落が存在します。田舎の教育の水準は都会と比べてかなりの差があります。この状況を改善することは、中国政府の急務だと思われ、日本に見習うべきだと思っています。

(高島町、留学生)

この授業に参加する前の「地域活性化」という事柄に対しては「インバウンドの推進」と関係のある観光産業が中心だった。地方の人々が大都市に集中してしまい、地方の人口減少が進んで問題になっている。日本は人口減少による自治体の財政難などの打開策として観光業に力を入れている。そしてメディアでは外国人観光客を積極的に日本に幼稚するために国家単位で様々な投資を行っている。この風潮の中で、私も地域活性化という言葉を聞くとすぐ観光産業を思い出すことになった。

しかし、高島町での経験は地域活性化イコール観光産業だけではなく、さらに多角度での考え方が必要であることに気づかせた。観光産業がその地域社会で一つの基盤産業として役割を果たすためには、その地域住民が安定的な生活を営むための地域基盤産業(例えば、高島町なら農業と食品加工業)にも目を向けることが重要であることだ。地域の魅力は歴史の流れで変わりながら地域の独特なストーリーを生み出す中にある。その魅力を高島町に訪れた人々に伝えるのは地域住民である。特に高島町のようにまだまだ地域の観光地というところが整ってない地域はということもない。地域住民が観光産業の中で主なプレーヤーとして活動できる安定的な地域経済を維持させて、経済的な問題で他の地域に移住しようとする状況を減らすことが必要である。その取り組みは少ないが他地域からの移住する人を増やせる一つの手にもなりえる。

(高島町、留学生)



実施経費

年度	内訳	金額	負担者
2019年度 夏学期	往復バス代	330980	山形県
	宿泊代(1泊2食付) x 6日x 参加学生36人の半額	432000	
	山形県負担合計	762980	
	帰路バス代(国際教育支援基金)	297940	東京外国語大学
	教員の出張旅費	178976	
JETRO講師料	10000		
JTB交通費	22000		
	大学負担経費合計	508916	
	12000円 <small>※</small> 昼食と雑費+宿泊代の半額(12000)		学生
	合計	1271896	

成果と課題

成果

2018年度の反省を踏まえて、(1)スタディツアーの実施時期を酷暑を避けて9月とすること、(2)7月に事前学習を行い、スタディツアー本番までの約2カ月間に、課題図書を学習させること、(3)日本語の運用に自信のない留学生には日本人学生を1人付けて、スタディツアーの期間中サポートを行うこと、(4)各自治体の受入れ人数を10人程度に抑えること、などの対応を行った。その結果、前年度の反省点の多くは、改善されることとなった。

課題

ただ、経費の問題は継続的に問題が残り、学生の負担を軽減することと、自治体や大学側の経済的負担を抑えることの両立が大きな課題として残った。

2019年度冬学期

各自治体の受入案

寒河江市： TASSHO・田代地区の誘客促進に向けた情報発信、コンテンツのブラッシュアップなどの提案。寒河江市としての冬季観光・インバウンド・地域活性化への提案。

高島町： 町が抱える地域特性やインバウンドにおける課題・問題点をみずからの体験を通して認識し、その活動のなかで課題解決する道筋や人と地域とのつながりを学び、将来を担う人材を育成することを目的とする。

参加学生

寒河江市 8人

留学生4人(ベトナム、モンゴル、コロンビア、フランス)
日本人学生4人

高島町 6人

留学生3人(コロンビア、トルコ、ラオス)
日本人学生3人



各自治体での活動

①寒河江市

1月29日【水】

寒河江市役所訪問
蜜蝋キャンドルづくり体験

1月30日【木】

田代地区のご家族と交流、スノーアクティビティ体験
(スノーシュートレッキング、雪上バナナボート)
ワークショップ
(SWOT分析を利用した田代の分析)

1月31日【金】

ワークショップ
陵西中学校にて交流授業
田代地区交流会



やまがた雪フェスティバル(2月1～2日)



2月1日【土】

雪フェスティバルブースで蜜蝋キャンドルづくり。各国のお菓子設置。

2月2日【日】

寒河江市観光(山王寺公園、慈恩寺、イチゴ狩り、そば打ち体験、酒蔵見学)

2月3日【月】

白岩小学校にて交流授業、プレゼン準備

2月4日【火】

最終報告会

②高島町

1月29日(水)

高島町到着
宿泊施設ゆうきの里さんさんでカレーパーティー

1月30日(木)

企業(酒造)での体験学習(米鶴酒造、後藤酒造店)



1月31日(金)

午前: 酒造での体験学習(米鶴酒造、後藤酒造店)
午後: ワークショップ(企業研修の振り返り、JETROワーク)

2月1日(土)

午前: ワークショップ(企業研修の振り返り、JETROワーク)
午後: 昭和縁結び通り商店街/和楽茶の間訪問・インタビュー
雪かきボランティア経験

2月2日(日)

休日
夕食: 町内の若者との交流会



2月3日(月)

プレゼン準備

2月4日(火)

午前: 受け入れ企業にてプレゼン
報告会
午後: 地元報告会

学生からの提言

①寒河江市

田代ブランディング計画

- 1) 田代ブランドの強化により、より多くの訪日観光客を引きつける
- 2) 地元の人を巻き込み、田代ブランドに誇りをもってもらう
- 3) ターゲット層: 自然とのつながり、体験型ツアー、オーガニック文化に興味のある27~37歳の欧米豪の富裕層
- 4) 言語の違い: ポケットークの活用
- 5) 文化の違い: インフォメーション・センターの設置
- 6) 交通手段の不足: 観光タクシー、レンタサイクルの活用
- 7) 宿泊施設: ホームステイ、TASSHOの活用
- 8) 朝と夜のアクティビティの充実
- 9) 他の旅行地との差別化: テーマ性、ストーリー性のある商品・ツアー
- 10) 田代ブランドの発信: インターネットや SNSの活用
- 11) 未来像: 田代ブランドを確立し、観光促進のぶれない軸を作る

②高島町

後藤酒造さんへの提案

- 1) 日本酒を和食以外の料理と合わせる可能性を探る: 日系レストラン、スペイン料理、東南アジア料理
- 2) ラベルのデザインの改良: 日本語と英語の併記、海外向けの日本らしいデザイン、プレミアム感を出す
- 3) ストーリーブランディングで買い手の感情を動かす
- 4) SNSを使ってブランド力を高める

米鶴酒造さんへの提案

- 1) 「どこにでも売りたいわけではない(温度、光の管理がしっかりしたところに売りたい)」をアピール — 生産だけでなく、流通にも責任を感じていることをアピール
- 2) 酒造見学ツアーをSNSで発信
- 3) 新しいマーケットの開拓: ふだん日本酒を飲まない若者や外国人
- 4) SNSやHPで英語を使って酒造のこと、日本酒の飲み方・保存方法などを説明
- 5) 日本酒のカクテルのレシピをシェアし、日本酒に興味を持ってもらう
- 6) 裏ラベルの利用: カクテルレシピ、QRコード

スタディツアーに参加して

※ 学生たちの報告書からの抜粋

寒河江でのスタディツアーに参加するのが2回目となった今回、寒河江で過ごした一週間は、ふるさとに帰ったかのような日々だった。2年前に一週間滞在しただけだが、寒河江、田代の皆さんは私のことをよく覚えており、皆さん私の顔を見るや否や、笑顔で話しかけてくれた。東京に住み始めてから、忙しく近所付き合いなど皆無の私にすれば、一つの共同体の一員として生きていることを感じさせ、大きな何かに包まれているような安心感と懐かしさに浸ることのできた一週間だった。まさにこれが今回の「田代ブランド」でも二大柱に掲げた「心温まる寛容さ」を象徴するものであり、寒河江・田代はまた訪れたいと強く思わせてくれる魅力的なまちであると痛感した。2年前、今年と本当にお世話になった寒河江の皆さんとはこれからも連絡をとり、定期的に訪れていこうと心に決めた一週間であった。

(寒河江市、日本人学生)

この1週間を通じて、大人から子供まで沢山の地元の方々、そしてインバウンド推進に取り組む方々と出会うことができた。すべての体験・活動はこれらの方々の協力なしには経験できなかったことである。地元の方々・小中学生との交流やワークショップなどでは、最終日の提言に向けて、地域の魅力や弱点発見のためのヒントを得る機会を多く与えて頂き、また体験型の活動等では、田代地区・寒河江市の魅力を私たちが存分に感じることができるよう送迎や解説などのサポートをして頂いた。すべての皆様のご協力と、あたたかい心遣いに感謝の気持ちで一杯である。

(寒河江市、日本人学生)

Out of all interactions I had with locals, the community in Tashiro was the most interesting. The warm and friendly atmosphere of Tashiro was one of the highlights of my experience in Yamagata. Even though there was a language barrier between me and the local people, they made me feel at "home." Also, through my interview with the local people, I learned that everyone in Tashiro knows each other, so they help each other in times of need. They said that their community was like "a big family." While I was in Tashiro, their heartwarming gestures made me feel as if I was a part of the "Tashiro family." This is the reason our group has included this point in our final presentation. We believed it was a big quality that made Tashiro stand out from bitter cities like Tokyo.

(地元の方々との交流のなかでも、田代地区との交流がもっとも興味深いものでした。田代地区の温かく友好的な雰囲気は何よりも印象的でした。地元の方々とのあいだには言葉の壁があったものの、まるで“実家”にいるような気分にさせていただきました。また、地元の方々へのインタビューを通じて、田代地区の住民が互いに知り合いで、必要なときには助け合っていることを知りました。自分たちは「大家族」のようなものだと地区のみなさんはおっしゃっていました。田代の方々の心温まるおもてなしを受け、自分も“田代家”の一員のような気までしました。私たちが最後のプレゼンテーションに、この点を含めることにした理由もそこにあります。それこそが田代を東京のような大都市に比べて引き立たせる大きな魅力だと考えたからです)

(寒河江市、留学生)

This study trip was definitely an opportunity for immersing myself more into the Japanese culture and for getting to know how the lives of the rural people in Japan are. We learned about the lives of the local people, about the challenges that they face because of the aging of the population and the desertification of the region but also had the occasion to share more intimate thoughts with them.

.....

I believe that Sagae, Tashiro and the rural areas of Japan have a great potential that should be considered when advertising them to the people: when you go to this rural areas, the time seems to freeze and you get the feeling that every second spent talking with a local, sharing with a family, exchanging thoughts with students is an occasion that is transforming you as a person.

(このスタディツアーは日本文化により深く親しみ、日本の地方の暮らしを知る絶好の機会になってくれました。地方の人々の暮らしを知り、その地域が直面している高齢化や過疎化といった問題について学ぶことができました。また、地域の方々と踏み込んだ意見交換の場も持てました。

.....

寒河江市や田代地区もそうですが、日本の地方は、観光客を呼びこむにあたり、大きな可能性を秘めていると思います。こうして地方を訪問することで、時間が止まったような気がし、地元の方々と交流したり、学生たちと意見交換したりすることで、自分自身が変化していくような気がしました)

(寒河江市、留学生)

こうして昭和縁結び通りについて考えていると、私はふと、これは □分の地元である佐賀県の現状と変わらないのではないかと感じた。私は佐賀市に住んでいたため佐賀のより □舎のほうの町についてはあまりよく知らないが、 □畠町の寂れた雰囲気と佐賀のそうした □舎の町の雰囲気は □常に似ていると感じた。さらに、 □畠にいる間に聞いた若者離れの話や耕作放棄地の話、第 □次産業従事者の離職についての問題などはすべて佐賀県でも起こっていることではないかと気づき、 □分の地元への興味のなさを痛感した。また、こうした □畠の現状を知ったことをきっかけに、もっと佐賀のために働きかけたいと思うようになった。今回のスタディツアーに参加して得られた最も □きな収穫はこの、地域活性化に対する意識の変化だと思う。佐賀という □舎出 □である私が、また別の □舎である □畠の課題を 解決しようと試 □錯誤することによって、 □畠で起きている問題はここだけの問題ではない、今 □本全国で直 □している □きな課題なのだということを実感することができた。そして今、その課題の解決のために私にできることは、 □分の地元である佐賀のことをもっと 考え、 □動を起こすことだと思う。今回のスタディツアーでは □畠町の様々な場所を巡らせてもらうことができ、熱中 □学校やもつくるなど佐賀県では □たことのない興味深い取 り 組みをたくさん知ることができた。こうした □畠町の取り組みを参考に、佐賀県ならでは魅 □や、佐賀県でしかできないことを活かした取り組みに参加し、もっと □分の地元 に 貢献したいと思う。

(高畠町、日本人学生)

My experience in Takahata will be very important in my future since my career (International business) is basically international marketing and not only Japan but many countries throughout Europe and South America have started to experience population decline in rural areas, and understanding how the regions feel about this is important to find a proper solution. At least for the traditional businesses such as Benten, they can export their products, thus finding a new market might not be that difficult, but for those who sell services to locals the problem is more difficult. In the short period I stayed in Takahata, I felt that it has to determine which kind of tourists they want, what they can offer to them, and which possible changes can they make to attract them. In my personal case, I found that Takahata is doing well by attracting tourists through rural activities such as cherry picking, and wine tasting, but I also feel that people won't spend a lot of money in those activities, so as the old station of the town has a very pretty early 20th century European atmosphere to it, it could be used to host weddings, the beautiful mountains near the town could be used for glamping, and maybe even for fishing tours. In conclusion, Takahata's strong point is nature and rural activities, so it should base its touristic market niche around it, but since there is competition from other towns in other prefectures, they should also work on a specific niche and build more experiences around it.

(高島町での経験は国際ビジネス ——おもに国際マーケティング ——を専攻する 私にとって将来に役立つ重要な経験となりました。日本だけでなく、ヨーロッパ や南アメリカの多くの国々においても、地方での人口減少は顕著になりつつあり、それについて現地の人々がどう感じているかを理解することは解決策を見つけるうえで重要だからです。少なくとも辯天のように伝統的な商品を作っている企業は、商品を輸出することができます。新たなマーケットを開拓することもそれほど困難ではないはずです。しかし、サービスを提供している企業の場合はよりむずかしくなります。高島町に滞在した短いあいだに私が感じたのは、地元の人々がどのような観光客を誘致したいと思っているか、そういう観光客に町として何を提供できるか、そして、観光客をひきつけるのにどんな改善が可能かを判断すべきだということです。私の個人的な意見としては、高島はサクランボ狩りやワインの試飲会のような地元での活動を通して観光客をうまくひきつけていると思いますが、そうした活動に人々はあまりお金を落とさないような気もしました。それ以外の観光資源としては、高島町の古い駅舎は 20 世紀初頭のヨーロッパの雰囲気を持つきれいな建物なので、結婚式場として使えると思います。町のすぐそばの山々は非常に美しく、グランピングに適していると思います。釣りのツアーを企画してもいいと思います。つまり、高島の強みは自然に囲まれていることと田舎ならではの体験ができることですので、そこに観光資源を見出すべきですが、他県や他の町との競争もあるため、より特別な観光資源を生み出し、それについて実際に観光客を誘致する経験を積むべきだと思います。

(高島町、留学生)

実施経費

年度	内訳	金額	負担者
2019年度 冬学期	往復バス代	249740	山形県
	宿泊代(1泊2食付) x 7日x 参加学生14人の半額	196000	
	山形県負担合計	445740	
	帰路バス代	249740	東京外国語大学
教員の出張旅費	75556		
JETRO講師料	10000		
JTB交通費	22680		
	大学負担経費合計	357976	
	12000円 <small>※</small> 昼食と雑費+宿泊代の半額(14000)		学生
	合計	803716	

成果と課題

成果

これまでの反省を踏まえながら実施をし、かなり軌道に乗ってきたという印象があった。とくに、夏学期にも実施した留学生へのサポート (3)を行うことで、留学生への日本語支援という点とともに、日本人学生も留学生と交流することができるというメリットが確認された。成果を発信する場である報告会や、山形スタディツアー公式ブログも充実させることができた。

課題

成果を積み重ねてきたにもかかわらず、広報が十分ではないという問題点が残っている。山形県にも、東京外国語大学との連携事業の成果としてブログの広報をしてもらいたいと伝えている。また、参加学生からも、大学の発信力の不足が指摘されている。なお、経費面で問題が残っている。山形県から受けた支援は今後継続される見通しが立たないと説明をうけている。学生負担が重くなると、留学生の参加を促すことができなくなるため、経費面での問題は未解決のままであった。

2020年度

各自治体の受入案

- 現地での実施は断念
- 新型コロナウイルス感染拡大、その対策、人の移動の制限等々、という新たな状況を経験したことで、スタディツアーの課題を再設定する
 - 1) インバウンドの有効性と問題点
 - 2) 国内を含め、観光による人の誘致に依存することの有効性と問題点
 - 3) 地域を活性化するために、生活様式を含めどのような形がありうるか
 - 4) 持続可能な社会を創るために何が大切か
 - 5) グローバル化を考える
- 地元高校生と外語大生との交流を企画する

参加学生

留学生3人(韓国、ドイツ、スペイン)

日本人学生10人

※ 地元自治体・事業者・住民の方々との意見交換にはこれまでの参加経験者も参加。



オンライン・プログラム

2月1日(月)

第1回： 導入

- 授業の趣旨説明: 従来の目標と実施状況確認、現状認識と目標の再設定について
- 山形県の概要(資源、文化、特産品、観光)と政策目標の現状(デジタル・マーケティングや滞在コンテンツの充実など、県が行っている施策)
- 山形の地域特性(歴史的な観点から): 街道の整備、最上川舟運の発達、特産品、陸上輸送、鉄道、軽便鉄道、戦前・戦後の流れ等

第2回： 各自治体のプレゼンテーション

- 寒河江市: 概要と現況、TASSHOについて、コロナ禍の影響
- 高畠町: 強味と課題(有機農業とたかはたブランド)
- 白鷹町: 産業と資源、観光の現状(山形鉄道フラワー長井線)、コロナ禍の影響
- 飯豊町: 観光と資源、飯豊町のSDGs、コロナ禍の影響

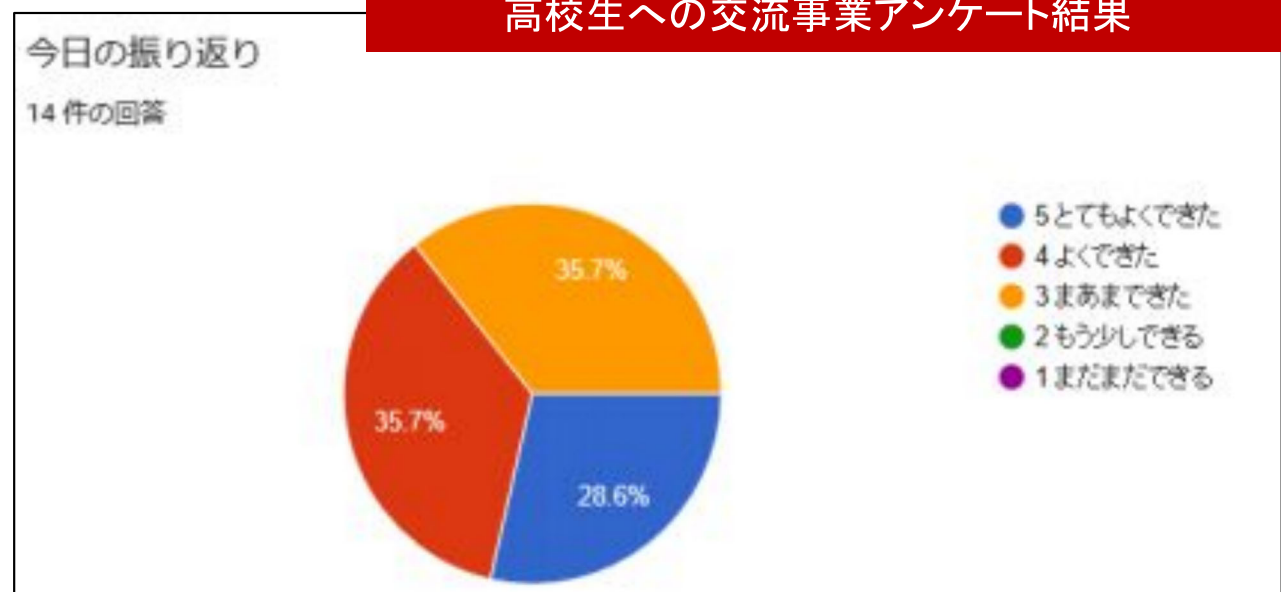
第3回： JETROの講義

- JETROの業務紹介
- 日本の地方中小企業の海外展開について
 - なぜ今海外か
 - 輸出をするうえでの障壁
 - 地方中小企業の課題
 - コロナ禍中の取り組み

第4回： 高校生との交流事業1

- グループワークで自己紹介と留学生による出身地域の紹介

高校生への交流事業アンケート結果



2月2日(火)

第5回：自治体との意見交換1

- 4自治体にわかれて実施

第6回：自治体との意見交換 2

- 4自治体に分かれて実施
- 報告会のプレゼン作成作業

2月8日(月)

第7回：4自治体グループによる報告と意見交換

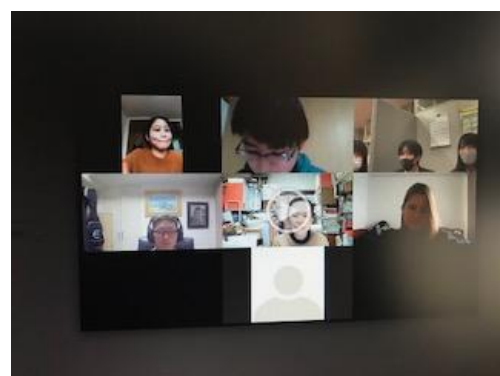
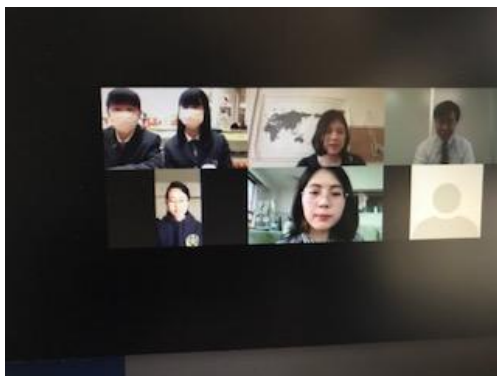
- 4自治体への学生の提言

第8回：高校生との交流事業 2

- グループワークで将来像のイメージワーク。5秒で変われることをディスカッション
- ワークの発表

第9回：まとめ

- 各自治体関係者からのコメント
- 寒河江市：3年をくぎりとして、次の3年のメインテーマを大学といっしょに探っていきたい。
- ※ TASSHO:学生の提案については目指す方向がぼやけないようにピンポイントで詰めていく必要があると思う
- 飯豊町：3年で一区切りついたが、外語大とは5年10年といっしょに取り組んでいきたい。観光をテーマにしてきたが、コロナ禍のような状況でそれをいかにまわしていくかという方法も探っていきたい。
- 白鷹町：これからは福祉等その他の可能性も探してみたい。観光についてももう少し絞った形で提案してもらったほうがいいと思った。
- 高畠町：今回は高校生との交流に時間を費やした。いい交流になったと思う。
- 大学からのコメント
 - 地元の若い人を巻き込む必要があるという意見が新しいと思った。
 - 他大学との交流など、横へも広げていけるといいと思う。
 - 学生が自主的にSNSのグループを作ったのが驚きだった。
 - 学生たちが自主的に議論を深めているのがよかった。



学生からの提言

①寒河江市

宿泊施設TASSHOをハブにした課題解決型プログラムの実施

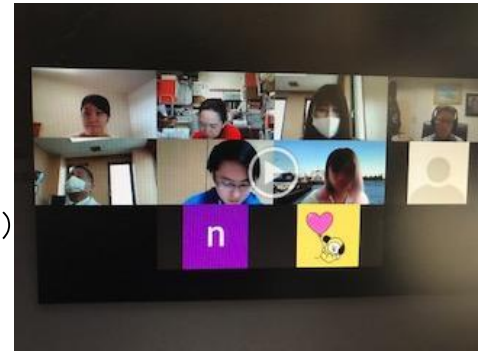
- 1) ターゲットの設定
 - 大学生(とくに山形県内の学生、山形県出身の学生)
- 2) コンテンツの整理
 - TASSHOに1週間以上滞在
 - 地元の人との交流
 - 魅力発信の方法の検討
- 3) 差別化のポイント
 - 地元の人々がすべて運営している
 - サポート体制が整っている
 - 滞在しながら色々な体験・アクティビティができる
- 4) 情報発信・PR方法
 - 県内大学との協働、既存のSNSの有効活用
 - Facebookでのグループの宣伝
- 5) 具体例の提示
 - 持続可能プログラム
 - PRの具体例(U-GAKUの利用など)
- 6) 利点と課題の整理
 - 利点:若い世代の参加が認知度上昇や宣伝効果につながる。持続的に若い世代の視点を得られる。大規模イベントに頼らないことでコロナ禍にも対応
 - 課題:運営のむずかしさ、参加者確保の持続性、家族連れを巻き込めていない



②飯豊町

- 1) これまでのスタディツアーの成果と問題点
 - 着地型観光の旅行商品の提案⇒共通する課題は料金設定
コンバインに乗れるお米の収穫体験
いいでスローライフ
スノーツアー
- 2) 飯豊町の魅力・課題
 - 課題: 交通の不便、野生動物との境界線の崩壊、多言語への対応、知名度の低さ
 - 魅力: 食べ物、伝統・歴史、人々のつながり、

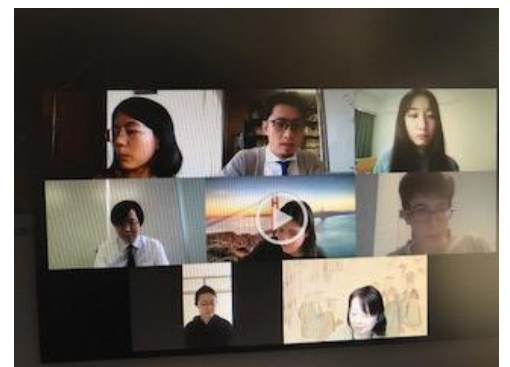
- 3) 今後の飯豊町でのスタディツアーでやりたいこと
 - 飯豊町の子供たち、若い世代との交流
 - 大学生のための山村留学、フィールドワーク
 - 田舎の生活の実態を知る体験
 - ドキュメンタリー・フィルムの作成(プロモーション)
 - オンラインショップの宣伝
- 4) 今後の山形スタディツアー 全体でやりたいこと
 - 参加者による学内向け広報活動
 - サークル・コミュニティの結成(Facebook グループの作成)
 - ツアー形式以外の山形県との連携プログラムの拡充



③高島町

スタディツアーの成果とその未来

- 1) これまでのスタディツアーの内容
 - 企業研修、JETROワーク、フィールドワーク、課題解決ワーク
- 2) スタディツアーの成果
 - 気づき(自分の故郷のことを考えるきっかけになった。生産者と消費者の距離が遠いことを知った。学生同士が仲良くなれる)
 - 企業や地域の方から刺激になったと言われた
 - 海外の通販サイトで取引開始
 - オンライン商談会
 - 海外大学とのスタディツアー
- 3) スタディツアーの課題
 - 認知度を高める必要がある
 - 継続のための財源の確保
 - 地元の学生とのつながり
- 4) スタディツアーの未来
 - 高島みんなのホームタウン計画
 - 小中高生のいる家庭にホストファミリーになってもらう



④白鷹町

日本の若年層を主なターゲットにして白鷹町の知名度を高める

- 1) 宿泊客を増やすための設備の充実
 - 空き家の利用
 - AIRbnb登録
 - 中高生のホームステイ受け入れ
- 2) 決済の利便性を高める
- 3) 間接旅行サービス
 - VRツアーと頒布会の融合
 - 既存のプラットフォームを利用
- 4) 白鷹町サポーターズ
 - インターン、地元の大学生や中高生をサポーターとして募集
- 5) SNSでの写真コンテスト
- 6) HPの改善
 - 視覚的にわかりやすいサイトに
 - 多言語に
- 7) フラワー長井線のPR
- 8) 観光タクシー
- 9) ASMR「白鷹町の響き」(音のみの動画のアップ)
- 10) ロボホンツアー誘致
- 11) 紅花染めキット
 - 小学生の自由研究向けに
 - VRツアーで工房体験
- 12) コロナ禍のあとを見据え、HPをオールインワンのプラットフォームに整備
- 13) ソーシャルメディアの活用



スタディツアーに参加して

※ 学生たちの報告書からの抜粋

一つ目の気づきは、自治体に提案をすることの難しさだ。とりわけ、どこまで学生が踏み込んでいいものかという境界線がなかなか掴めなかったことに対して難しさを覚えた。地域活性化に効果的だと考えられる案は複数浮かんだものの、その案をどこまで学生側で深掘りして自治体に届けるか。この加減が曖昧で難しかった。白鷹町の発表では十一個のアイデアをお届けしたが、他のグループの発表を聞いたことで、我々も一つの案に絞ってプレゼンテーションをしたほうがよかったのかもしれない、とも考えた。

また他の難しさを感じた点としては、提案した学生側と自治体側にギャップがあるかもしれないという部分だ。実際に現地へ足を運んでいない立場としては、自治体側が本心では何を考えているのか、何が実現可能で何が難しいのか、なかなか推測したり読み取ったりすることが難しかった。特に、白鷹町の大瀧さんからは「低コスト」での提案を依頼されていたが、外部からは自治体のお財布事情が見えず、どの範囲までなら実現可能性があるのか、ということが分からなかった。ただ自治体側としても、自らの運営体制や財政状況のことを赤裸々に語ることはできないだろうし、学生としてもその部分に土足で入り込むのは控えたい。お互いにあと一步のところまで踏み込めず、遠慮してしまったような感覚がある。

二つ目の気づきは、一口に山形県と言っても市町村ごとに強みも特色も異なり、県内でもお互いがライバルになりえるということだ。白鷹町の場合、町内へ観光には立ち寄ってもらえるものの、周辺の自治体に温泉街や宿泊施設が立ち並んでいることから、観光客がそちらに流れてしまい、町内での宿泊には繋がりにくいという。受講前、私は「山形県の自治体全部が協力して観光を推進すればいいではないか」と安易に考えていたのだが、今回の授業を通し、各市町村の間でも競争があるということを感じ取った。だからこそ、それぞれ自治体の伝統や特色を生かし、周辺の市町村と自分たちの差別化を図ることが不可欠になってくるのだろう。

(日本人学生)

初年度夏の参加時には、プロジェクト自体がインバウンドに着目していたこともあり、観光に主眼を置きその技術的な面について提案する形となっていた。今回もグループとしての提案は観光面での改善案が主となり、他の地域を担当したグループでも同様の問題意識が見られた。自分自身としては、初回参加時から時間を置いて他の学習を進める中で、観光よりも地域の特性そのものに目を向ける機会が多くなり、観光に比重を置きすぎることには懐疑的になっていた。そのため、今回も地元を取り込み地域の地力を高めた上でそれを観光によって発信する形を想定して臨んだ。実際、田代のみなさんと意見交換を行う中で、周知徹底や地元の若い世代の知識養成が重要であり、今回事前に考えていた形がある程度正しかったのではないだろうかと感じている。一方で、地元を巻き込んでいく、また人員の養成手法については具体的な方策は検討できておらず、今後の課題である。時間は経ったが、初年度をはじめ回ごとの提案を地域の方々が真摯に受け止め実行しようと努力をいただいていることが改めて実感でき、嬉しく思うと共に感謝の限りである。今後も注意深くスタディツアーを見ていきたい。

(日本人学生)

今回高校生との交流事業で高校生の将来について考える手助けをする中で、我々学生もスタディツアーを通して自分の将来、生き方について学ぶことができるのではないかと感じた。

例えば、外大生の中には海外へ留学することで、多様な生き方、価値観に触れる機会があり、その中で自分の将来や進路について考え直すことがあるという人が数多くいる。しかし、日本の中にも多様な生き方、価値観がある。今回のスタディツアーではそのことへの気づきがあった。

このスタディツアーはその日本の中にある多様な生き方、価値観に触れる貴重な機会であると感じた。手元に統計的なデータがあるわけではないが、外大生は関東圏の出身者が多く、地方でも都市部の進学校に所属していた学生が多いと考えられる。彼らは当然ではあるが、自分たちが成長してきた環境以外での生き方を知らない。そして、それなりに将来について考える能力があるため、それほどリスクのある選択を取らないと考えられる。結果として、彼らの進路は他大学のものと大差ないのではないかと思う。

自分は経営学を専攻しているため、大企業や有名企業が必ずしも良いとは思っていないが、多くの学生は企業を分析するノウハウを持たず、それ以外がそもそも選択肢に入っていないケースが多い。このことは、自分が暮らす地域を考える上でも同様であるように思う。

都市で生まれ育ったからと言って都市で生きていく事が自分に合っているとは言えない。このスタディツアーで地方に暮らすことの魅力や地方の可能性ということに学生が気づき、そこでの生活を現実的に思い浮かべることができれば、学生側のメリットはさらに大きなものになるのではないかと思った。

(日本人学生)

韓国でも過疎化という問題が今重要な社会問題として浮かんでいて、地方を活かして青年人口の輸出を防止するため様々な提案と政策の推進、そして議論などが行われている。でも正直に言うと、自分が住んでいない町でもないほかの地域についてはあんまり興味がなくて、詳しく考えたことはなかった。しかし、外国の日本で、しかも自分が生活している東京からずいぶん離れている山形県の持続可能な発展について話そうになるなんて、自分ながら不思議な感じであったし、同時にこのようなことに対する経験などがなくてよくなるのかという心配もあった。けれども、最初の授業を取りながら自信無さはいつの間にか興味に変わって、自分の担当した町について紹介してもらってからは、すぐ愛着ができてこの町のために悩んだり、考えたり、想像してみたりしていた。上で「住民」が大事だと思ったのも、この時からだ。もともと地元の住民がいなかった

ら、こんなに説明してもらうこともできなかつたらうし、自分が住んでいる町に愛着をもって、紹介をして、そして人に持たせたりするの、すべてが住民の存在がいたからできたものであったと私は思う。そしてそれをわかってくれる外からの人、例えばわたしや、観光客、がいるからこそ、ここから地域の発展がはじまると思っている。

地元のひとと、そしてパートナーの学生と話しながらいろいろなことを学ぶことができた。自分の提案と意見の持っている限界、志向すべき理想、地域の特性を生かす発展方法など、今までは一度も元詳しく考えたことないことばかりであった。今回の経験を最初の一步にして、帰っても自分の住んでいる町、ひいては韓国まで の発展にもついて考えて行きたい、と思った。

(留学生)

I only knew about problems in Japan's rural areas through my university classes in Germany. We learned about the rapid aging society due to the ongoing urbanization and the following „circle of hell“ repeating itself endlessly, but it is hard to really comprehend it in lectures. Although I couldn't actually see the life in Iidemachi due to Covid-19, talking to the locals on zoom already helped me understand the situation better. I kind of assumed that most villages wouldn't like outsiders (especially foreigners) to disturb their daily life, but at least in Iidemachi the opposite seems to be the case. Moreover, I realized, that even though people have great ideas to improve the situation there are many obstacles, especially regarding money and workforce. I think some ideas can be realized by convincing more locals to help with the preparation or engage in the programs.

Before the tour I didn't really think my participation in this class would actually have an influence on the local community, since we are just university students from a different part of Japan (or the world), but now I am happy to see that we can actually help others by sharing our ideas and reworking the concepts of previous students. I really hope more people will take an interest in this class and have the same realization.

(日本の地方の問題については、ドイツの大学の講義で習った知識しかありませんでした。都市への人口流入が進んだことによる急速な高齢化が悪循環を生んでいる状況については学びましたが、講義でそれを真に理解するのはむずかしいことです。新型コロナウイルスのせいで飯豊町での実際の生活を目の当たりにすることはできませんでしたが、地元の方と zoomで会話するだけでも、状況を理解する助けになりました。私は、地方の村の人は日々の暮らしを邪魔するよそ者(とくに外国人)を気に入らないのではないかと考えていましたが、少なくとも飯豊町ではまったく逆のようです。さらに気づいたのは、状況を改善するための素晴らしいアイデアはあるものの、障害も多いということです。とくに資金面と労働力の面において。アイデアのなかには、より多くの地元の人々に準備への協力やプログラムへの参加を促すことで実現できるものもあるのではないかと気がしました。このプログラムに参加するまえには、参加しても、じっさいに地方のコミュニティに影響をおよぼすことはないだろうと思っていました。私たちは日本各地(もしくは世界各地)出身の単なる大学生に過ぎないからです。しかし、今は新しいアイデアを提供したり、参加経験者の学生たちのアイデアを再考することによって、実際に役に立てたことをうれしく思っています。もっと多くの学生がこのプログラムに興味を持ち、同様の気づきを得てくれるといいと思います)

(留学生)

実施経費

2020年度	予算	共通教育経費にて「スタディツアー」として一括予算化 JETRO講師謝金分は学部競争的経費にて配分済み
	支出	共通教育経費から30万円を3年間の報告書作成経費（人件費）として配分を受ける

成果と課題

夏学期、冬学期ともに、現地でのスタディツアーとして計画していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑みて、まず4月に夏学期のスタディツアーを中止し、6月から7月にかけて学内授業担当者で話し合いをし、8月には自治体の方々も交えてオンラインで話し合いを行い、冬学期のスタディツアーも中止し、かわりにオンラインで現地スタディツアーに代わる授業を冬学期に実施することとした。

大学には、新規に世界教養プログラム「社会協働／キャリアデザイン論」（冬学期1単位）の授業開設を申請し、許可をうけて、冬学期2月に授業題目「地域社会の持続可能性を考える」という授業を行うことになった。他方で、2020年度は4自治体と大学との連携協定3年目を迎えることから、3年間を総括する報告書を大学側で作成することにした。

成果

オンラインであっても、山形県の方々や学生がつながり、プログラムを進めてゆくことができることを実感することができた。

とくに、今回大きな収穫となったことの一つは、オンラインだからこそできた同時通訳である。大学院の通訳コースの大学院生が協力してくださり、Zoomの通訳機能を使って実施することができた。

また、山形在住のNPO法人や事業者の方々などにも、オンラインで参加していただくことができ、これまでスタディツアーでお世話になった方々に、大学側関係者がはじめてご挨拶する機会となった。

新規企画である高校生との交流事業も、高畠町様と高畠高校のご協力のもと、具体的な運営は学生たちが主体的におこなう形で実施することができた。

課題

2018年度からの参加経験学生さんにも参加してもらい、当時行った提案が現在どのように実現しているか、あるいは実現が難しいとすれば、その問題点はどこにあるか、地元自治体や事業者の方たちと意見交換することで、継続的な取組につなげていこうと企図していた。

しかし、単位を取得する授業履修者と単位を必要としない参加経験者の間に、連絡が十分に行き届かないなどにより一体となった事業参加・運営ができなかったという問題が残った。

高校生との交流事業の目的、方法など、今回が初めての取組であるため、時間不足や時間配分の問題など、今後改善すべき課題が残った。

2021年度から第二期3カ年を開始することには、関係自治体、協力機関、大学等で意欲を確認することができた。しかし、山形県からの経済的支援は期待できないということも確認され、今後、この事業の継続にあたり、経費面での問題が残されることになった。

山形スタディツアー 報告書

発行： 2021年3月

国立大学法人 東京外国語大学

住所： 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電話： 042-330-5111

E-mail: ok@tufs.ac.jp

HP: <http://www.tufs.ac.jp/>